

角田で幸せに暮らし 続けるために

～ウェルビーイングから考える私たちの未来～



自己紹介

1975年2月4日 秋田県西目町（現由利本荘市）生まれ（51歳）

（じゅんいちダビットソンと全く同じ誕生日）

1993年 県立秋田高校卒業・東北大法学部入学

1997年 東北大卒業・七十七銀行入行（長町支店配属）

以降・・・東京支店・調査部調査課・地域開発部調査課など営業店13年半・本部その他9年の勤務を経て、2018年7月に七十七リサーチ&コンサルティング設立と同時に出向

【他の職歴】

・仙台市中小企業活性化会議委員（2021年度～3期目）

・「河北いぐね倶楽部」（上場企業等の東北地区代表者会合）アドバイザー（2022年度～）

・河北経済研究所シニアフェロー（2022年10月～）コラムを寄稿（不定期）

・「福島イノベーション・コースト構想推進分科会」民間委員（2023年11月～）

・東北経済連合会 次期ビジョン検討委員会委員（2025年12月～）

○「経済の専門家」と言われることにいまだに違和感あり。実態は数字（経済統計データ）を翻訳して、景気・経済をストーリーとして見せることをなりわいとする、単なる「経済統計オタク」。

○一人でも多くの人々の地域経済の醍醐味を伝えたく、特に発信力随一のマスコミ取材については日程を超絶調整をしても絶対に断らない主義の自称「経済ニュース界のコンビニ」（24時間365日営業中、品切れご容赦なるも欠品実績なし）

あなたは以下の問いにいくつ答えられますか？

- あなたは今、幸せだと感じていますか？
- そもそも「幸せ」とは何でしょうか？そして、どのくらい幸せかを数字で表すことができると思いますか？
- 「幸せ」と「豊かさ」は関係があると思いますか？「豊かさ」を数字で表すことができると思いますか？
- あなたの「幸せ」は角田市に住んでいることと関係があると思いますか？
- そもそも角田市はどんな街だと思いますか？「豊か」だと思いますか？もし「豊か」だとして、それは住む人の幸せにどんな関係があると思いますか？
- 「豊か」でないと「幸せ」になれない、「豊か」なら「幸せ」と言う人がいますが、それは本当でしょうか？
- **…以上のことを考えるため、何か便利な道具はないでしょうか？**

ウェルビーイングとは何か？

- ウェルビーイング(Well-being) → 直訳すると「**良い状態にあること**」
- (WHO:世界保健機関)「健康」=「病気でないこと」ではなく、
「**身体的・精神的・社会的に良好な状態**」
- さらに近年では、個人が人生のストレスに対処し、**自分の能力を発揮し、**
学び、働き、**社会に貢献できる状態**が重要であるとされています。

「**ウェルビーイング (Well-being)**」とは**身体的・精神的・社会的に良好な状態**にあり、その人らしく**幸福に**生きている状態

→単なる「幸福」や「健康」よりも広い概念、近年は経営、人事、教育、医療、行政まで**共通言語**になりつつあります。

なぜ今、ウェルビーイングなのか？ ①

なぜ今、ウェルビーイングなのか？ — 経済成長から「幸福」への転換

20世紀型の経済至上主義（GDP重視）では解決できない孤独やメンタルヘルスの問題が表面化しています。パンデミックや労働環境の変化を受け、人々の幸福度（ウェルビーイング）を高めることが、社会の安定と企業の生産性向上の両面において不可欠な戦略となっています。

社会的背景と指標の転換

経済成長だけでは測れない「生活の質」を評価する11の分野が国際基準となりました。



より良い暮らし指標
(Better Life Index)へ



ワークライフバランス
仕事と私生活の両立状態



主観的幸福
本人が感じる幸福感や満足度



社会的つながり
人間関係やコミュニティの質



世界で
約9億7,000万人が
精神疾患に直面

メンタルヘルスの悪化は、現代社会においてウェルビーイングを優先すべき最重要課題です。

経済・組織への影響



従業員エンゲージメントの
低さによる損失は
世界GDPの9%

年間8.9兆ドルもの経済損失を防ぐため、企業にはウェルビーイング向上が求められています。



コロナ禍で再認識された
「つながり」の価値

孤独感の増大を受け、社会的つながりが幸福と生産性の鍵であることが明確になりました。



離職防止と生産性向上を
支える新戦略

従業員の心身の健康への投資が、人材不足解消と創造性向上の原動力となります。

なぜ今、ウェルビーイングなのか？ ②

Strategic Dashboard

経済成長が「人々の豊かさ」とイコールであった時代は終わった

20th Century

評価の主軸: GDP / 経済成長

成功の定義: 物質的な豊かさ

健康の捉え方: 疾患の不在

職場の焦点: 単純な生産性

Modern Model

評価の主軸: Better Life Index / 主観的幸福度

成功の定義: 人生の質 (Quality of Life)

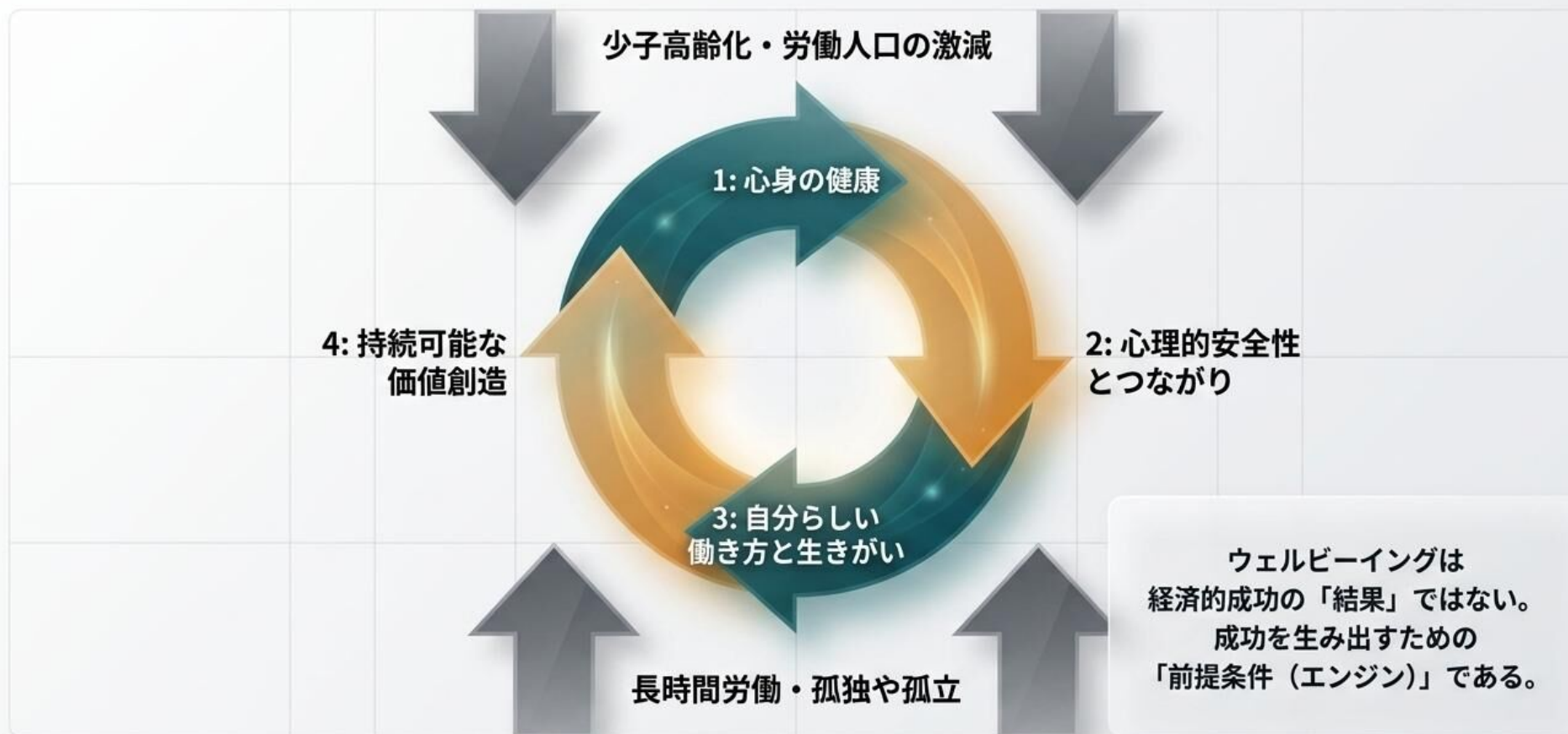
健康の捉え方: 心身・社会的な開花 (Flourishing)

職場の焦点: エンゲージメント

「先進国においてGDPが成長しても個人の幸福度は比例しない。
この『幸福度のギャップ』が、世界の評価軸を変えた根本的な理由です。」

なぜ今、ウェルビーイングなのか？ ③

日本固有の構造的課題に対する「最後の防波堤」



【地域経済が目指す方向性】

「昭和＝成長」「平成＝停滞」だったが「令和＝縮小」の時代。「成長」(増やす)から「成熟」(減らす)へ、一人当たり所得の維持・増加を目指しつつ、全体としては**スマート・シュリンク**（「戦略的に賢く縮む」）に方向転換、スモールビジネスの時代へ

拡大の昭和

・人口増加時代の 経済産業政策

～成長～

- 社会インフラ整備
⇒公共投資・住宅投資の増加基調
 - 雇用創出・賃金上昇
⇒企業誘致、創業支援
 - 個人消費の拡大
⇒商店街振興策等
 - 定住人口の増加
⇒生活環境の整備
- 「米国型の車社会」

停滞の平成

総人口は**減少**する

高齢化が進む

人口集中化が進む

**世帯人員減少・
単身世帯増加**

- 「ハード」から「ソフト」へ
- 「量」から「質」へ
- 「社会資本」から「人的資本」へ
- 「グロス」より「一人当たり」へ

縮退の令和

・人口減少時代の 経済産業政策

～成熟・縮退～

- ①過剰化・老朽化への対応
⇒新設より補修・維持更新
 - ②人手不足への対応
⇒生産性、省力化
 - ③需要の変化への対応
⇒シルバー・共稼ぎの需要
 - ④高齢者増加への対応
⇒日用品、医療サービスへのアクセシビリティ向上
- 「欧州型の徒歩社会」

＜地域経済のキーワード＞「レジリエンス」「スマート・シュリンク」（しなやかな持続・戦略的に賢く縮む）

- ・東北は「課題先進地域」＝人口減少社会に“東北モデル”で答えを出す（AI等のデジタル技術活用）
- ・地域経済エコシステム構築を目指す現行取組こそSDGsそのもの。特段の目新しい取組は不要。
- ・基盤産業（域外需要を取り込み外貨を稼ぐ産業）の創出・育成と地域内循環率向上（所得の域外流出阻止・地消地産）が必要。食料・エネルギーの自給率を高めて雇用の場と地域の所得を確保。

ウェルビーイング・5つの柱とは？

幸せを形作る「ウェルビーイングの5本の柱」

ウェルビーイングとは、単に病気がない状態を指すのではなく、心身ともに満たされ、自分らしく生きられている状態を指します。
本資料では、その中核となる5つの重要な柱について解説します。

「豊かさ」は柱の一つに過ぎない
ただ、間違いなく重要な一つ

個人の土台となる健康と安定



身体的健康：
活力に満ちた毎日

エネルギーを持って生活できる状態を指します。



精神的健康：
ストレスへの対処

自分の能力を発揮できる心の状態であり、WHOも不可欠な要素としています。



経済的安定：
安心できる生活基盤

生活を支えるための十分な所得や、経済的な安心感がある状態です。

社会とのつながりと人生の意義



社会的つながり：
良好な人間関係

家族や友人と良好な関係を築くことで、孤独を防ぎ幸福度を高めます。



働きがい・生きがい：
自分らしい人生

仕事や生活に意味を見出し、目的を持って生きられている状態です。

「所得」と「幸福」の関係に関する研究

ダニエル・カーネマン／アンガス・ディートン

(2010年)

「幸福」を2つに分けて年収との関係を調査

1. 「**人生評価**」(自分の人生全体にどれくらい満足しているか、「人生はうまくいっている」と感じる度合い)

2. 「**感情的幸福感**」(日々の生活のなかで感じる喜び、楽しさ、ストレス、不安など「今日幸せだったか」という体験レベルの幸福)

【研究結果】

1. は収入とともに上昇し続ける

2. は**年収約75,000ドル付近で頭打ち**になる

マシュー・キリングズワース (2021年)

・幸福感は75,000ドルを超えても**上昇し続ける**

カーネマン/キリングズワース(共同) (2023年)

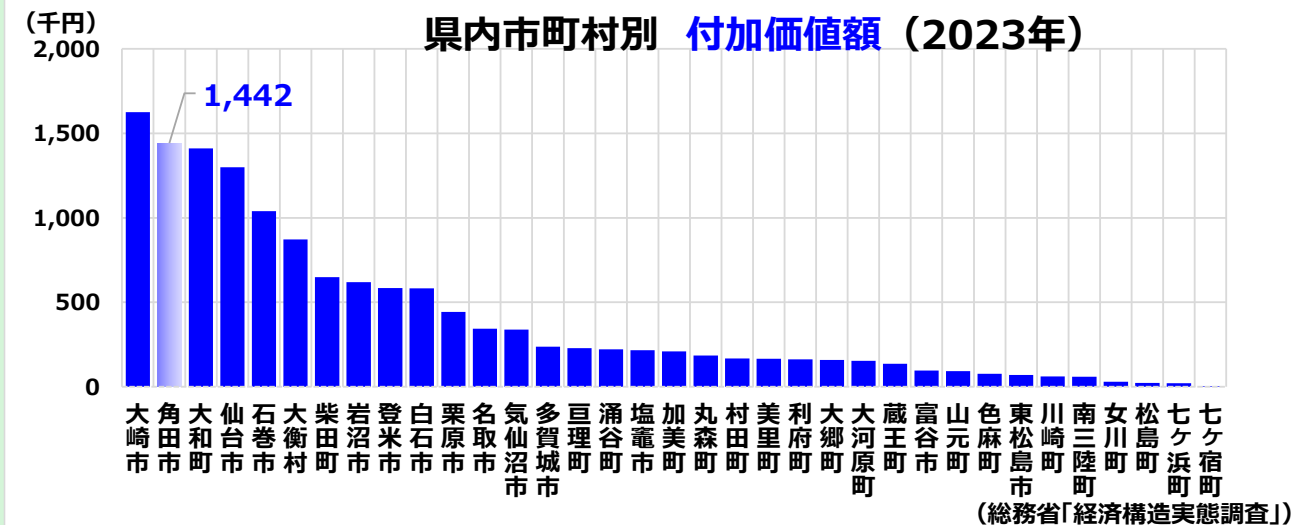
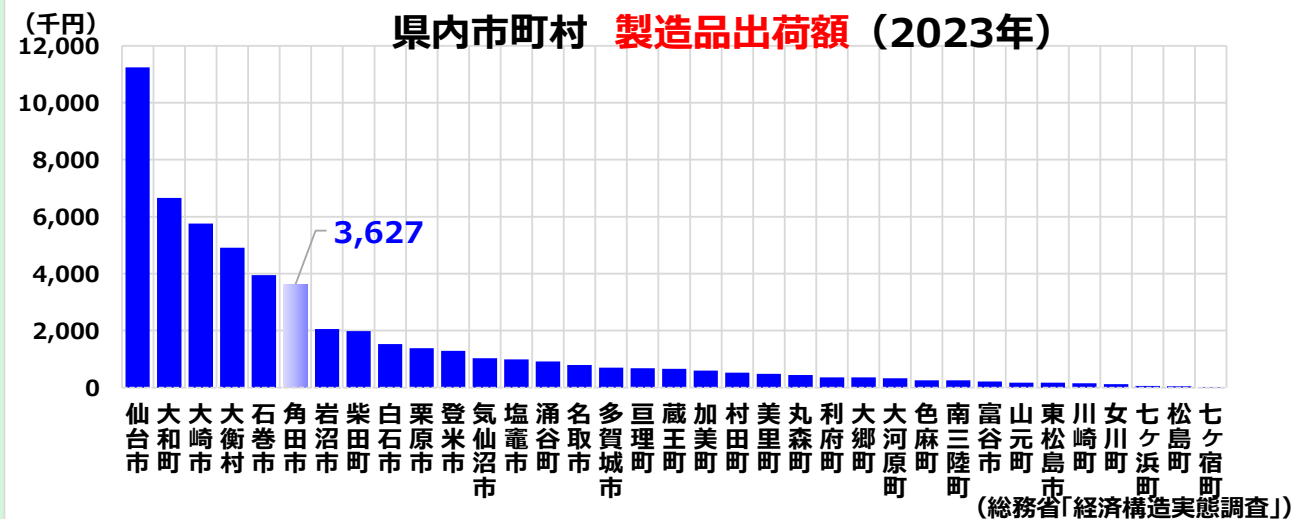
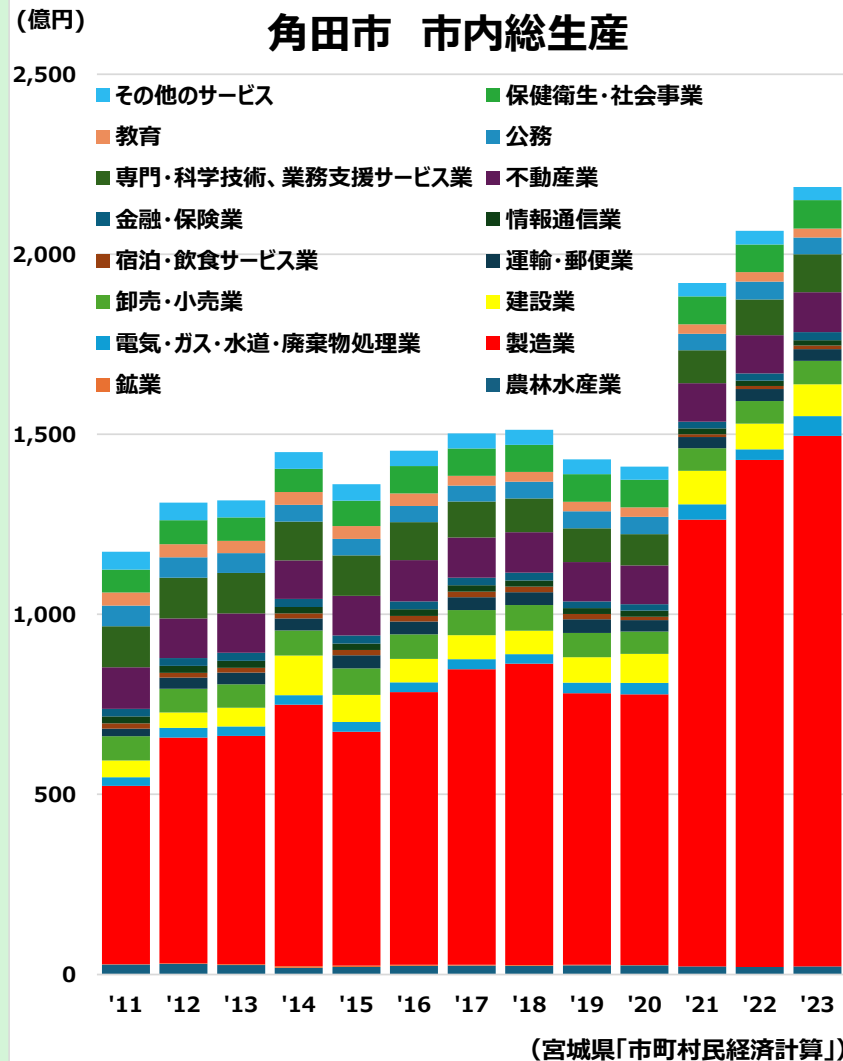
・大多数の人では収入増加に伴って**幸福感は上昇し続ける**

・ただし、**もともと幸福度が低い人々**では10万ドル前後で**効果が頭打ち**になる

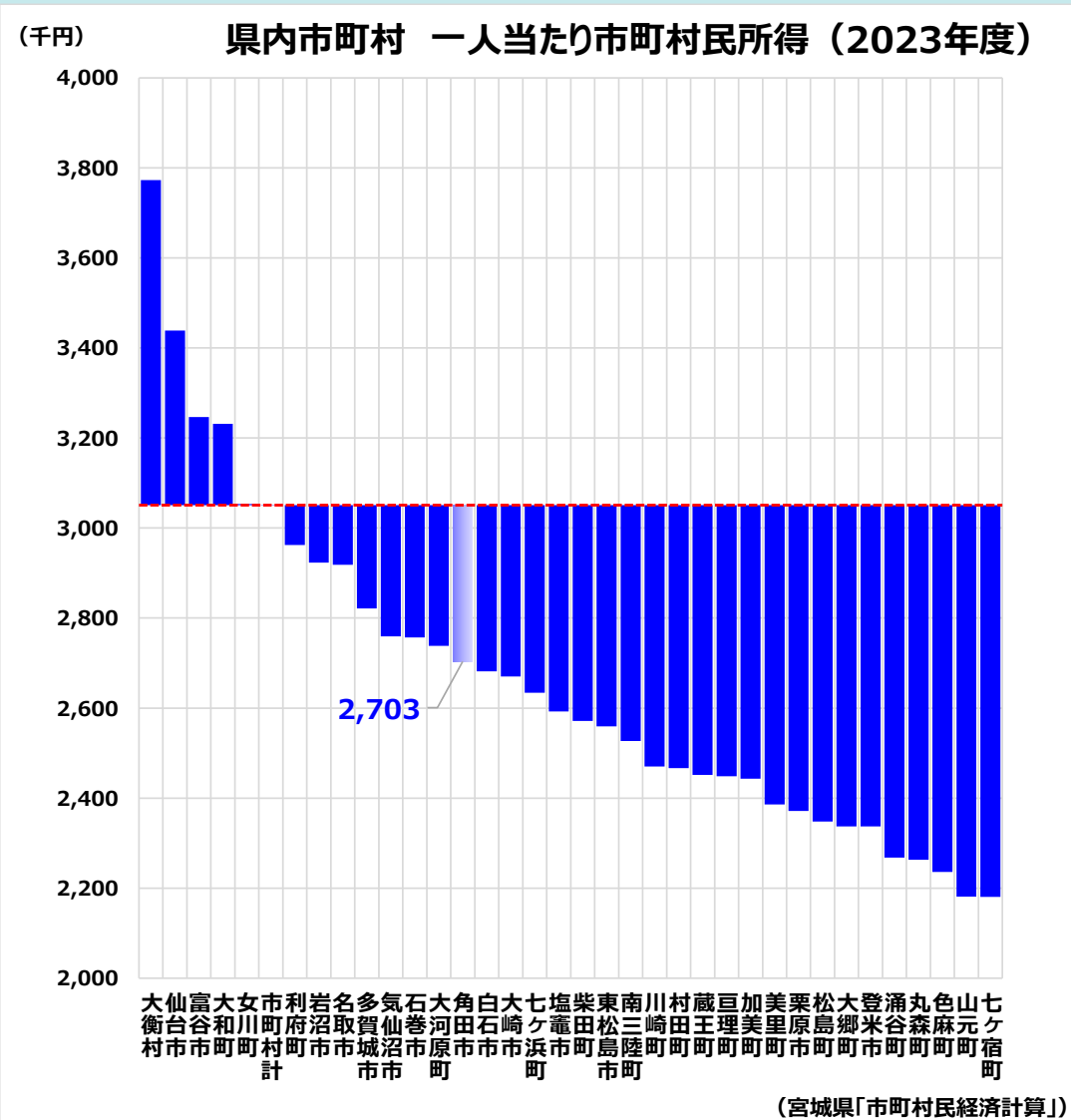
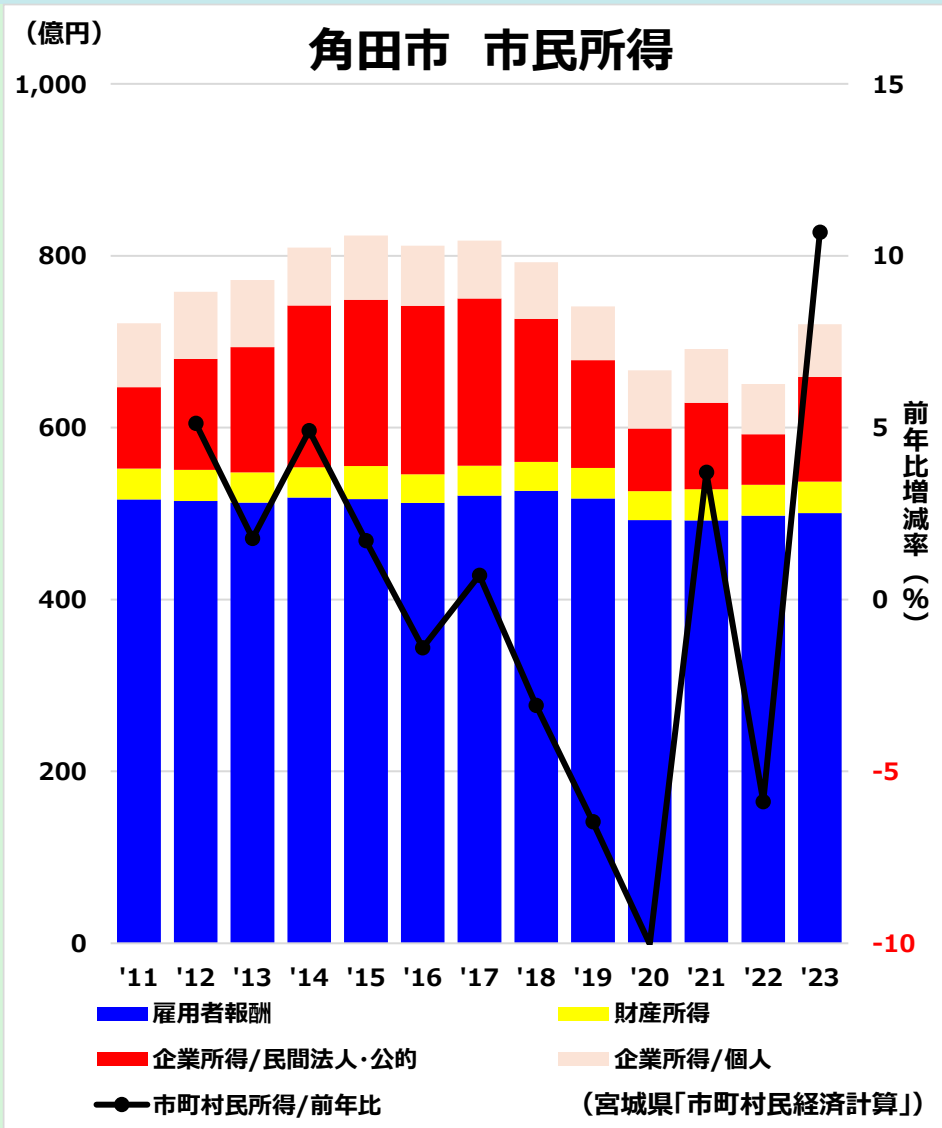
【現在の定説】

「**年収780万円を超えたら幸福感が増えない**」という単純な結論はもはや学界のコンセンサスではなく、むしろ、収入はかなり高い水準まで**幸福感と正の相関を持つが**、その効果の大きさは人によって異なる

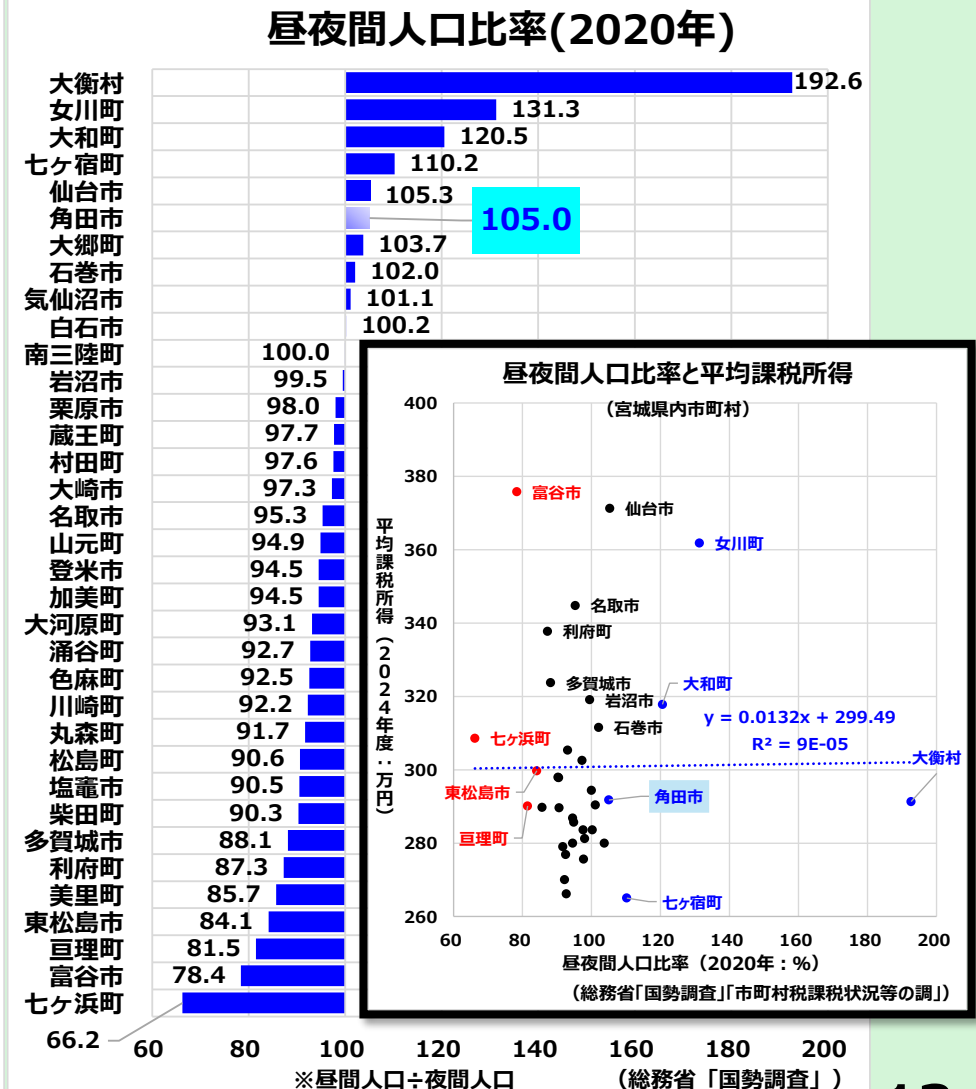
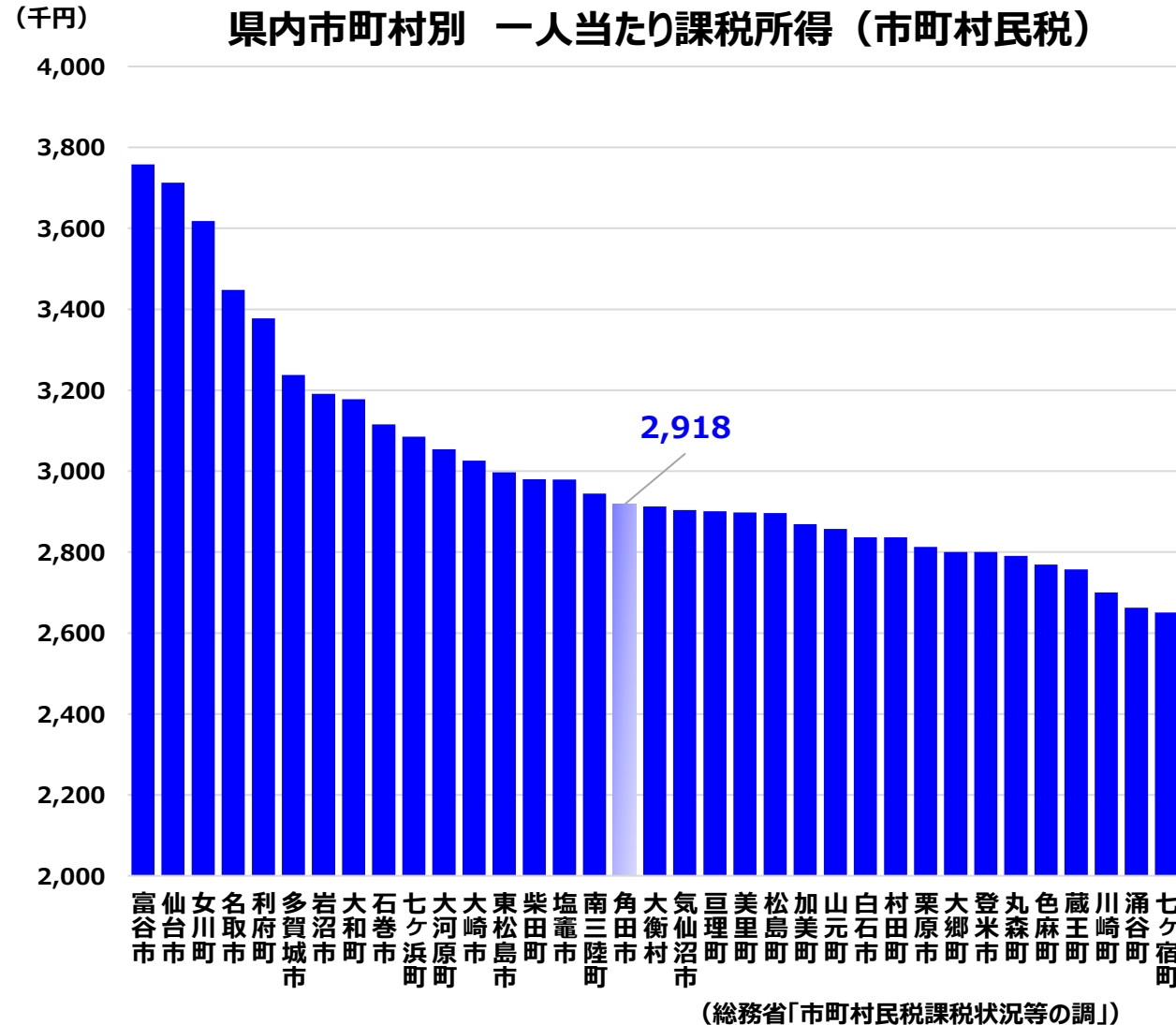
角田市の経済/主力の製造業



角田市の市民所得/分配所得・地域の稼ぐ力



角田市の一人当たり課税所得



地域経済循環分析（角田市：2022年）

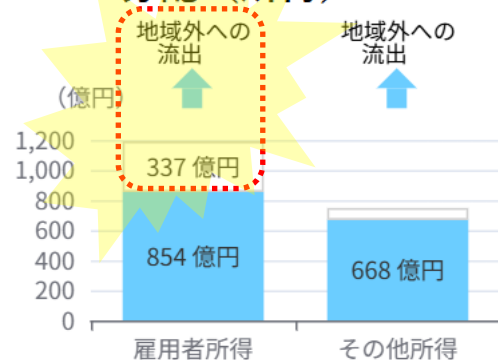
地域経済循環率

127.4%

所得への分配

1,939

分配（所得）

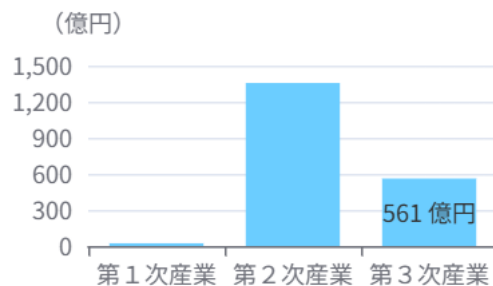


詳細を見る

所得からの支出

1,522

生産（付加価値額）

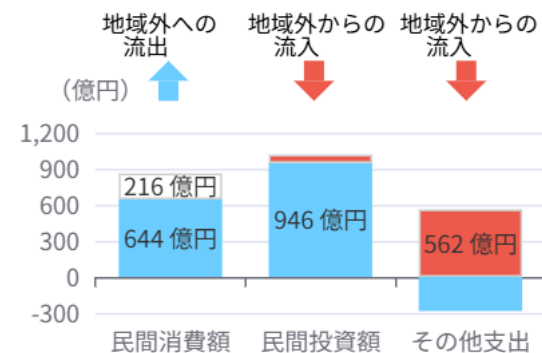


詳細を見る

支出による
生産への還流

1,939

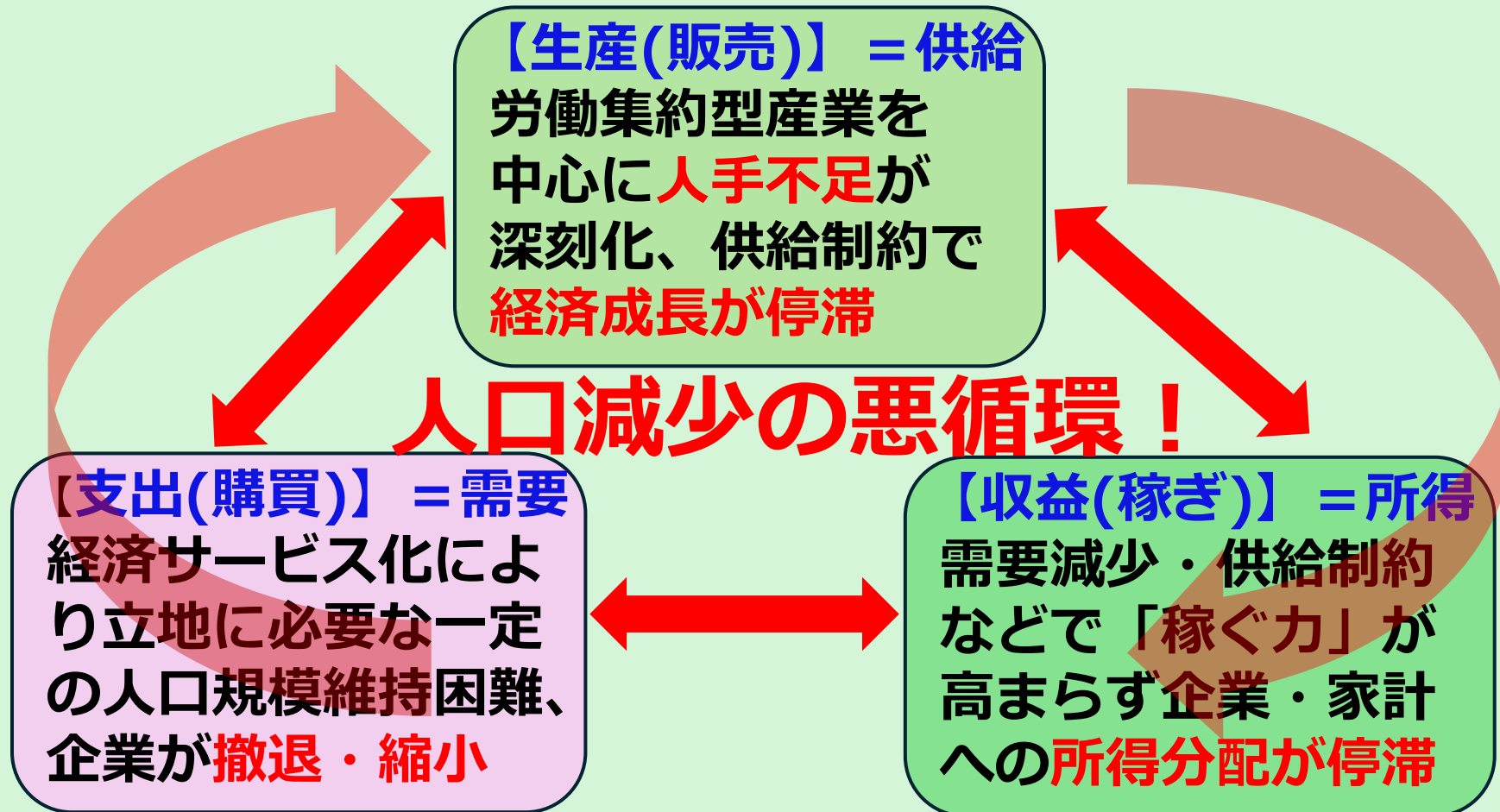
支出



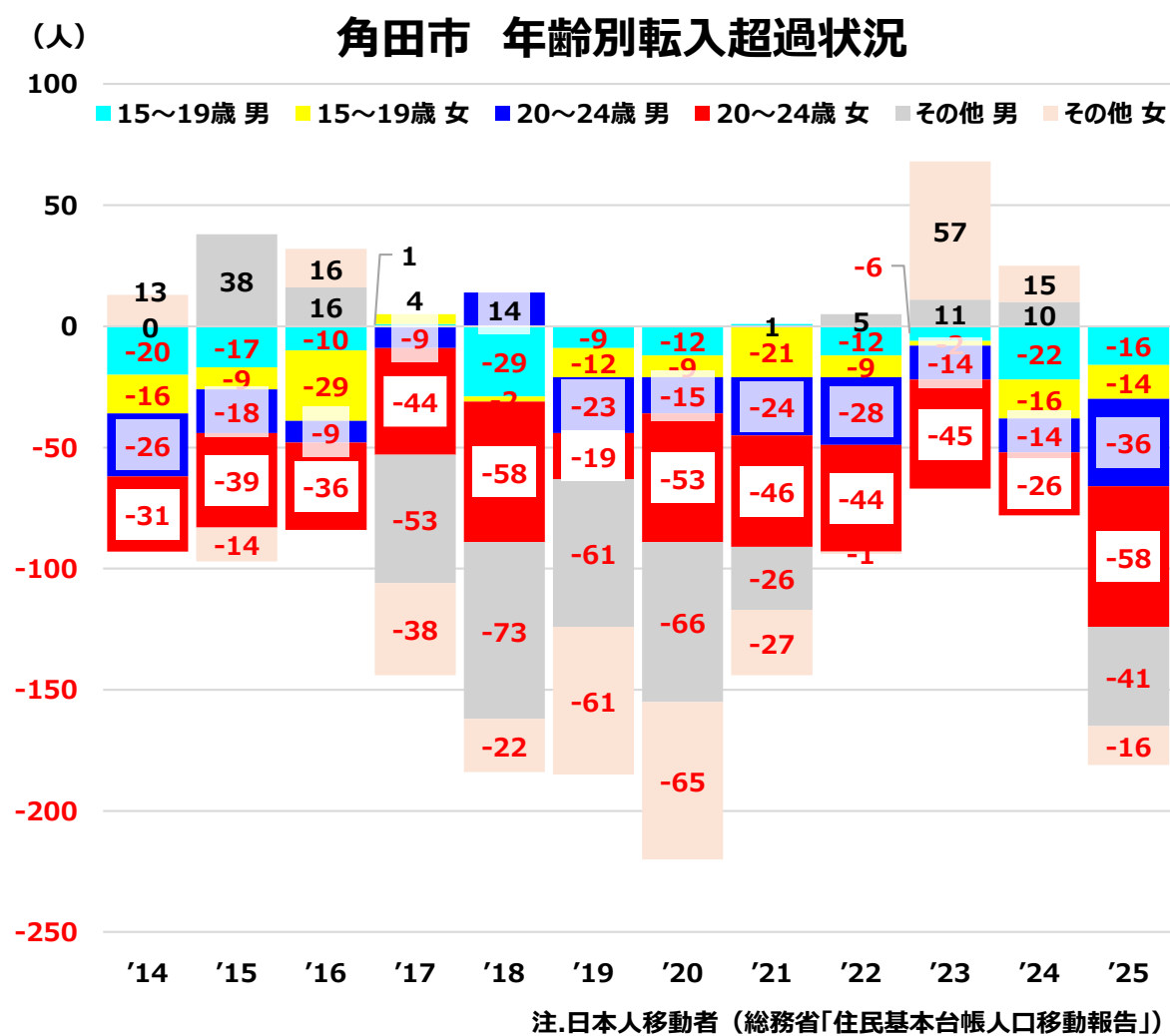
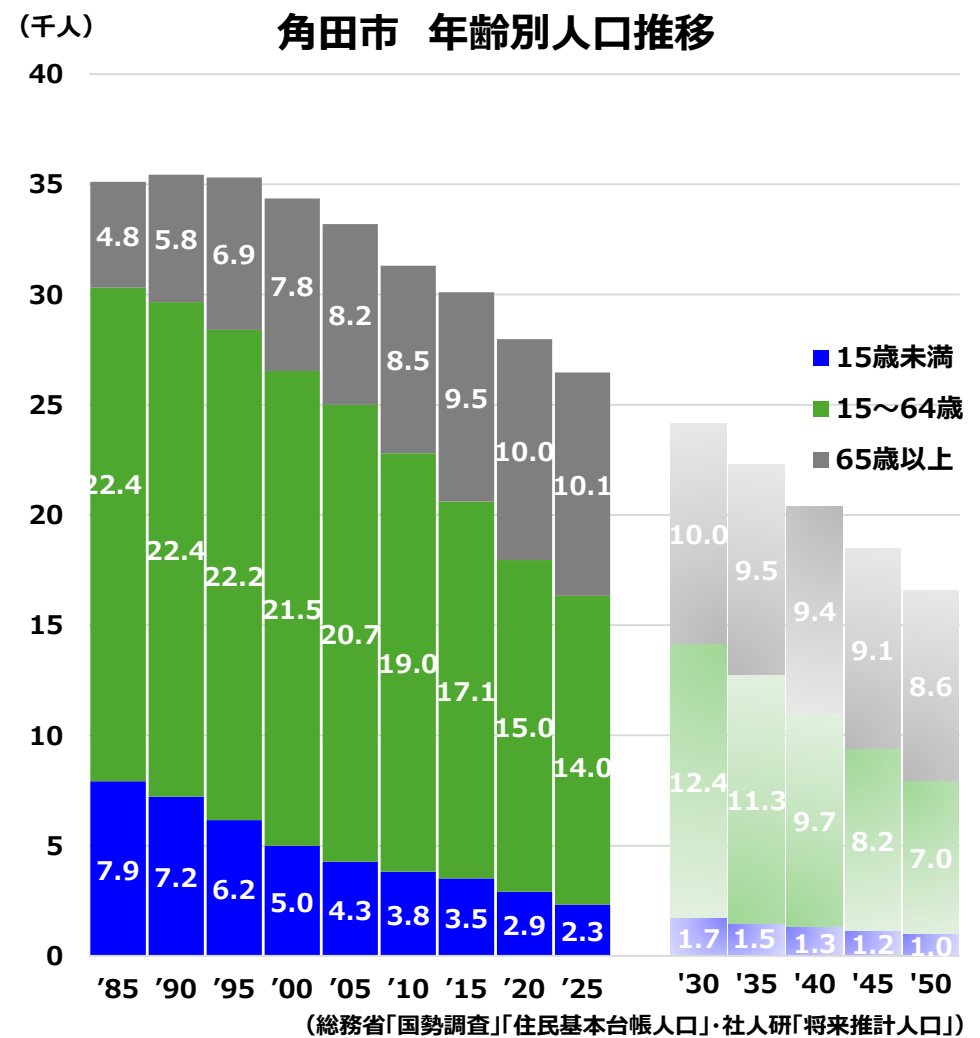
詳細を見る

（内閣府「RESAS」）

地域経済の課題は、そのほとんどが人口の問題だと考えられている



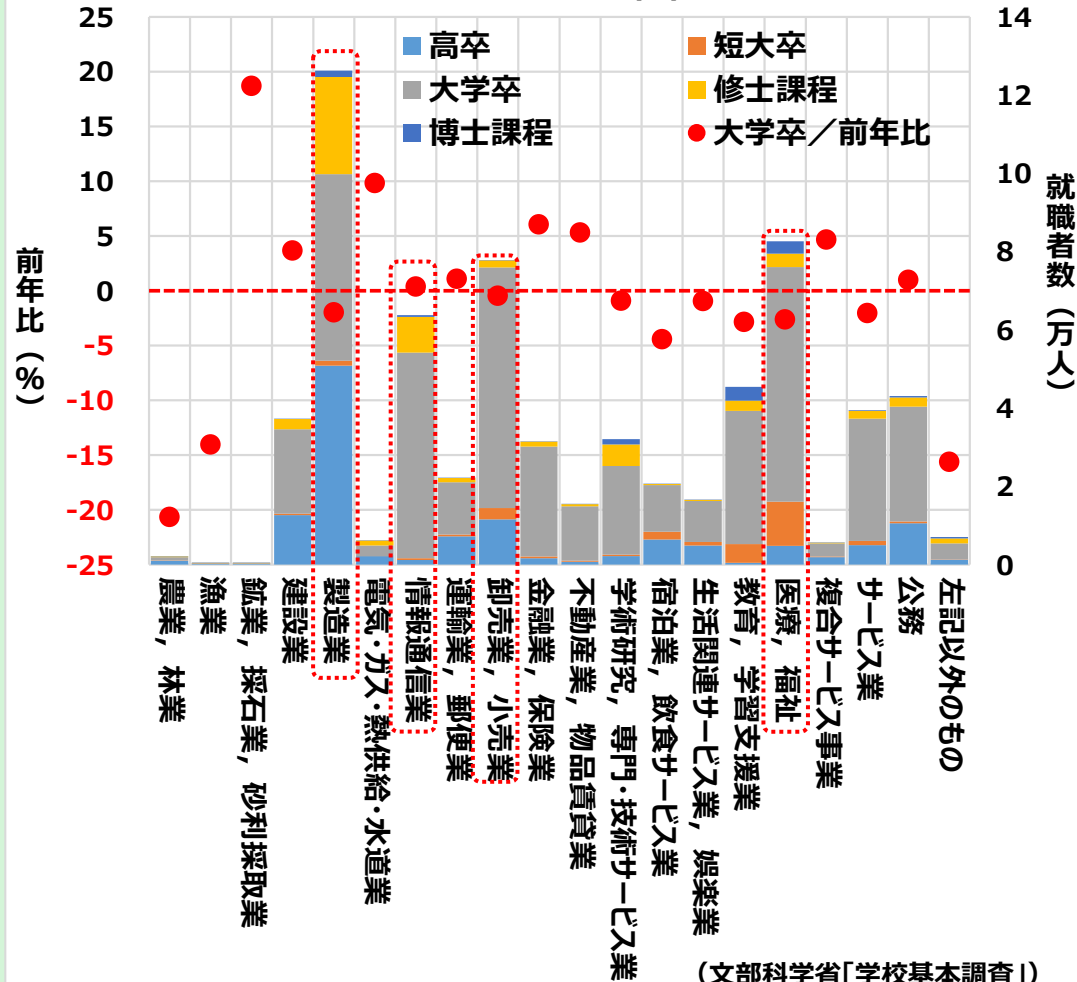
人口問題① 角田市の動向



人口問題② 就業問題

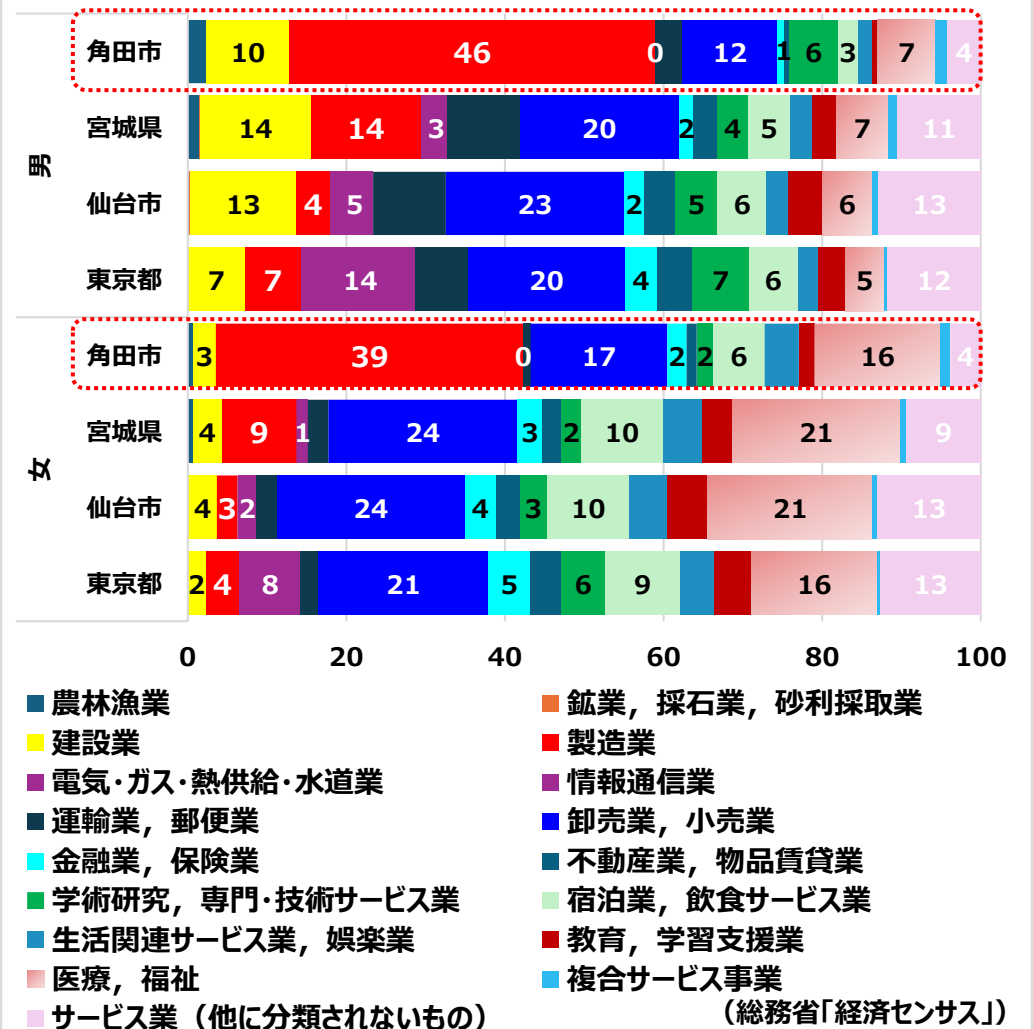
産業別・学歴別就職者数（全国・2025年卒）

※高卒・短大卒・大卒・修(博)士課程修了



従業者数 産業別割合(男女別)

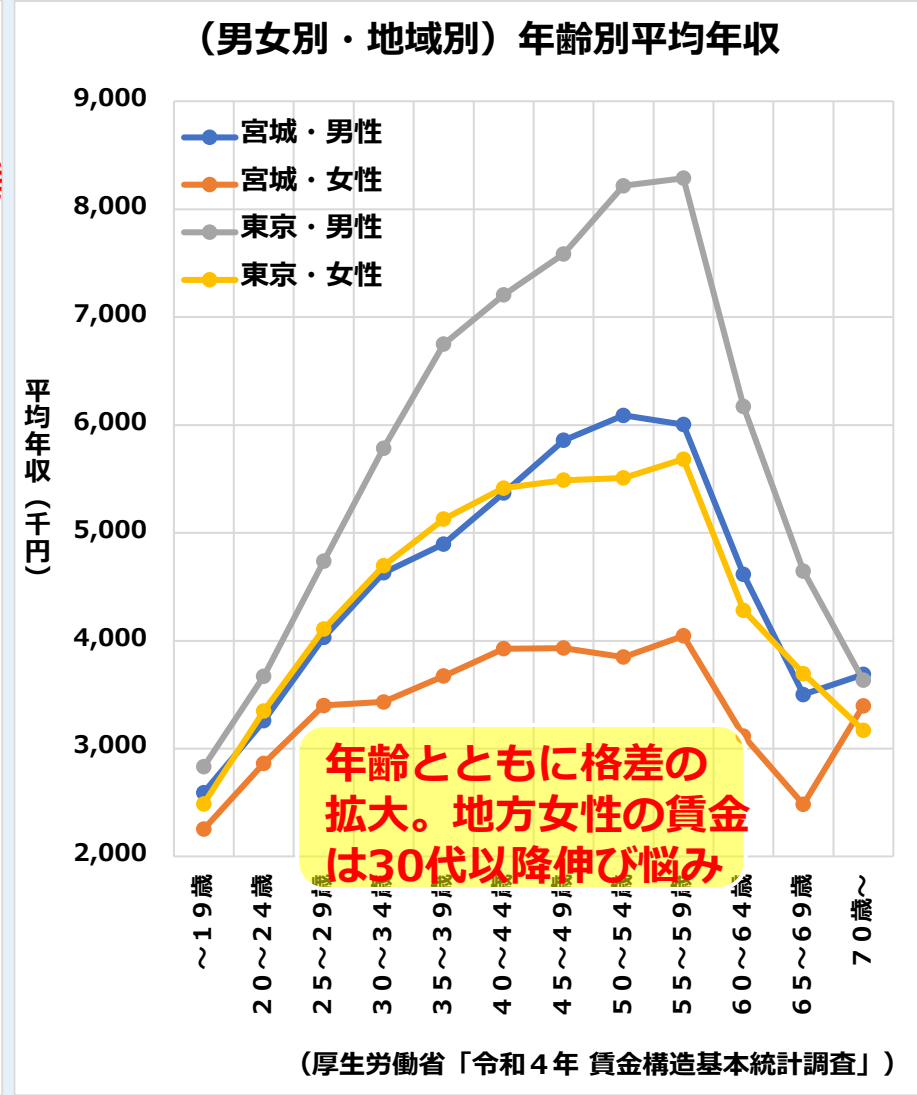
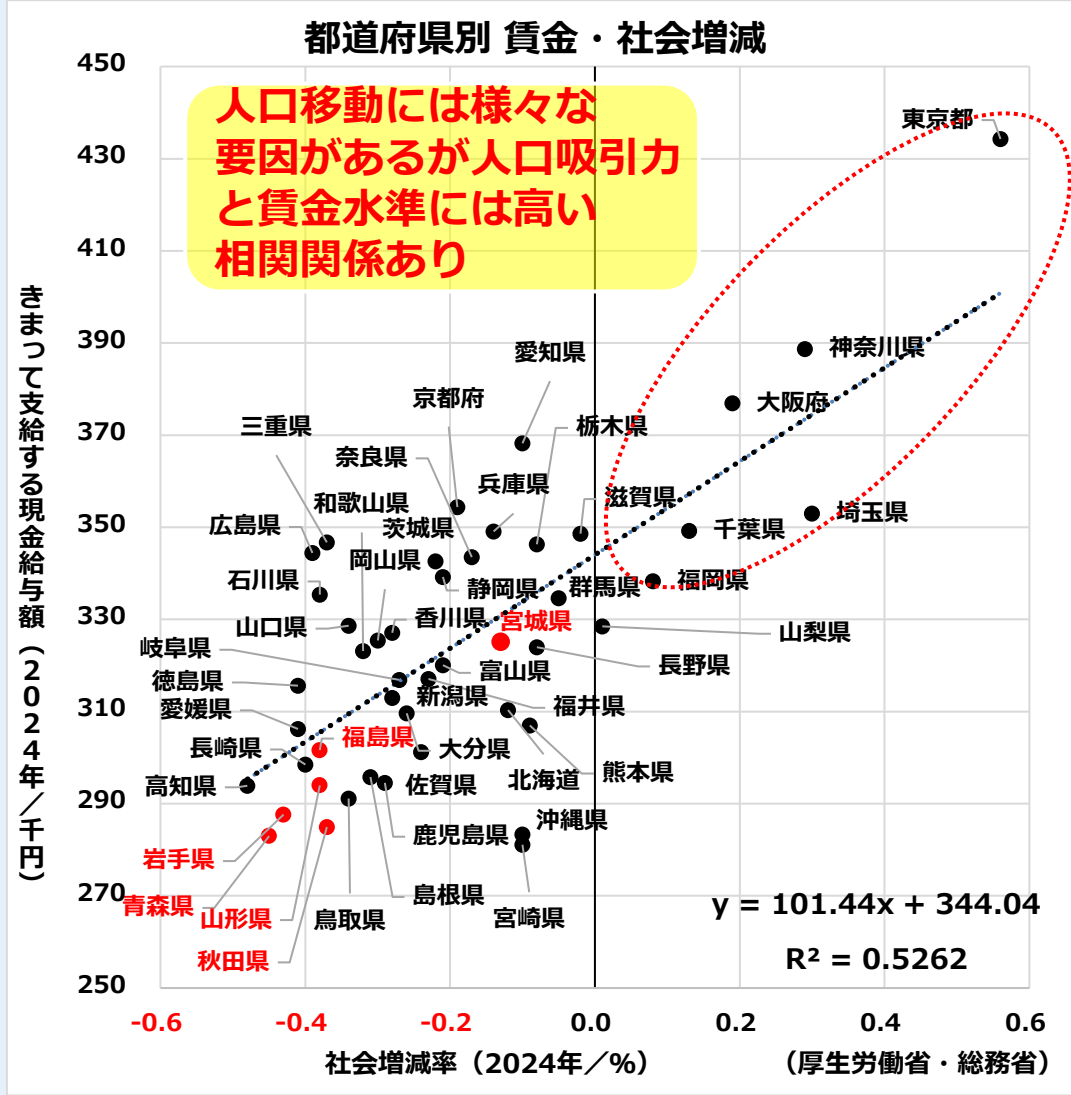
(%)



「労働」

○ 賃金・社会増減／男女別・地域別平均年収

賃金水準は人口移動の大きな要因で高い相関関係あり。都市・地方の賃金格差は特に年齢とともに女性で拡大する傾向あり。「カネがヒトを呼ぶ」のも集積の利益のメカニズムの一側面。



<参考>人口の特徴、減少は一様ではなく「一極集中」というよりも「多層的集中」

○ 人口集中のメカニズム

政策的効果ではなく、“**集積の利益**”を求め、一極集中というよりも**多層的集中**が発生（立正大学・小峰隆夫教授）

① サービス化

※経済成長・生産性向上→経済のサービス化（ペティ＝クラークの法則）

サービス業：生産と消費が同じ場所

→人口の多いところで多様なサービスが供給され、働き手が住むことで更に人口が増加

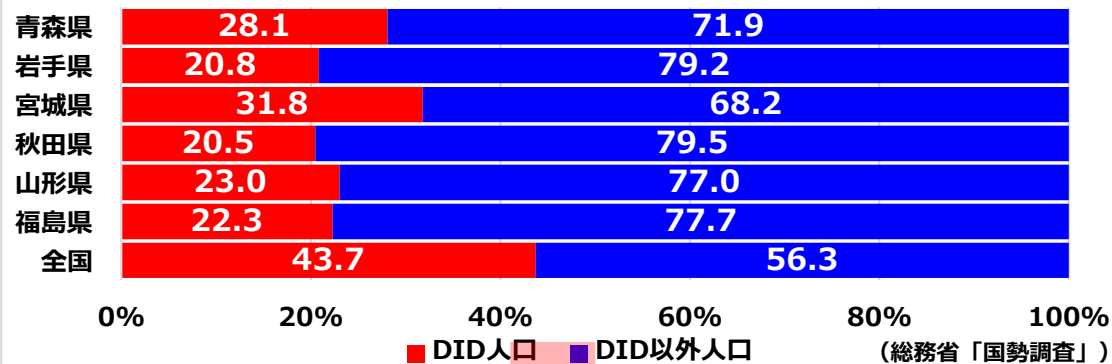
② 情報化

→I C T普及で情報は「形式知」よりも「**暗黙知**」（フェイス・トゥ・フェイスで入手）の**価値が高まる**

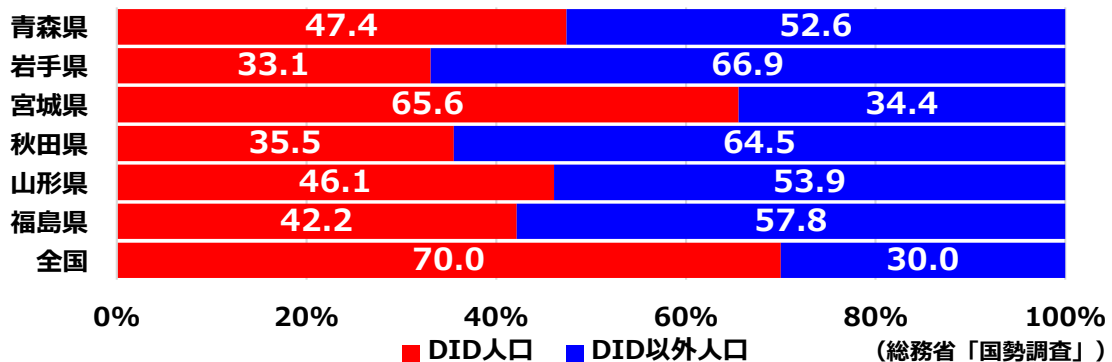
③ 高齢化

→高齢者は行動範囲が狭くなりがちで、様々な財・サービスが揃う都市部が好都合（都市部に出た子供世帯の近くに転居？）

人口集中地区（DID）人口比率（1960年）



人口集中地区（DID）人口比率（2020年）



・強まる“ヒトがヒトを呼ぶ”人口集中メカニズムだが、「東京一極集中」という単純図式ではなく各地域ごとの中心部に集まるフラクタル型の**「多層的集中」**傾向。人口減少地域でも**DID人口は増加**。政策によらずとも“コンパクト・シティ”志向。

<参考> サービス業に必要な人口規模とは？

自治体人口規模によるサービス施設の存在確率（≒所要商圈人口）

	50%	80%		50%	80%
食堂・レストラン	1,000	2,000	機械修理業	10,000	25,000
一般乗用旅客自動車運送業	1,000	20,000	不動産代理業、仲介業	15,000	20,000
仏教系宗教	1,000	2,000	病院	15,000	25,000
配達飲食サービス業	2,000	4,000	パチンコホール	15,000	25,000
歯科診療所	2,000	4,000	不動産管理業	20,000	35,000
自動車整備業	2,000	4,000	公認会計士事務所、税理士事務所	20,000	30,000
一般貨物自動車運送業	2,000	5,000	キリスト教系宗教	25,000	40,000
喫茶店	3,000	9,000	生命保険業	30,000	45,000
医薬品、化粧品小売業	3,000	5,000	ソフトウェア業	30,000	45,000
土木建築サービス業	3,000	7,000	カラオケボックス	30,000	45,000
通所・短期入所介護	3,000	8,000	倉庫業(冷蔵倉庫業を除く)	40,000	75,000
貸家業、貸間業	4,000	8,000	フィットネスクラブ	40,000	55,000
学習塾	5,000	8,000	情報処理、提供サービス業	50,000	75,000
食料・飲料卸売業	6,000	15,000	百貨店・総合スーパー	60,000	90,000
建物サービス業	9,000	20,000	行政機関	60,000	150,000
幼稚園	9,000	20,000	インターネット附随サービス業	70,000	100,000
保険媒介代理業	9,000	15,000	司法機関	250,000	450,000

金沢大学経済学経営学系「サービス産業のロジスティックモデルに基づく存在確率の推計とその応用」

サービスの多さは「生産・消費の同時性」のため一定規模の人口が成り立たない。人口の少ない地方では「撤退・縮小」と「魅力減退による人口減」の悪循環にも。

＜参考＞ 東北でも全域減（↘）・DID増（↗）のコンパクトシティ志向？

国勢調査人口（全域・DID）増減（2015-20年）

(%)

市区町村	全域	DID	市区町村	全域	DID	市区町村	全域	DID	市区町村	全域	DID
仙台市若林区	6.0	6.8	利府町	-1.8	-4.3	花巻市	-4.6	33.8	河北町	-6.9	12.1
仙台市太白区	3.5	2.3	仙台市泉区	-2.1	-7.0	石巻市	-4.8	1.0	白石市	-7.1	-3.8
名取市	2.7	2.7	郡山市	-2.3	2.1	十和田市	-4.8	0.2	横手市	-7.2	-11.1
南相馬市	2.1	9.3	山形市	-2.5	1.9	いわき市	-4.9	-16.8	登米市	-7.2	35.8
大和町	1.9	24.6	秋田市	-2.6	-2.0	弘前市	-5.0	-3.1	久慈市	-7.3	-10.5
矢巾町	1.4	34.4	寒河江市	-2.6	10.2	会津若松市	-5.4	-3.1	角田市	-7.3	-8.3
仙台市	1.3	0.3	三沢市	-2.6	-6.2	奥州市	-5.4	0.9	むつ市	-7.5	-2.3
多賀城市	1.2	1.4	盛岡市	-2.7	-0.8	米沢市	-5.5	-5.0	松島町	-7.6	-4.8
仙台市宮城野区	1.0	0.7	七ヶ浜町	-2.8	-2.6	酒田市	-5.6	0.9	上山市	-7.8	-6.4
仙台市青葉区	0.5	0.4	須賀川市	-3.2	8.1	鶴岡市	-5.6	-1.4	二本松市	-7.9	-3.3
滝沢市	0.2	7.0	柴田町	-3.2	3.9	南陽市	-5.8	-6.9	一関市	-7.9	-17.4
富谷市	0.1	1.7	八戸市	-3.4	0.8	気仙沼市	-5.9	-50.7	能代市	-8.7	-9.6
天童市	-0.1	5.2	塩竈市	-3.7	-3.8	大仙市	-6.2	-1.1	村山市	-8.8	-4.4
東根市	-0.2	-10.0	白河市	-3.9	-4.1	由利本荘市	-6.5	-10.8	喜多方市	-9.4	-6.6
北上市	-0.5	5.4	福島市	-3.9	-3.7	大館市	-6.7	-0.4	相馬市	-9.6	-14.2
大河原町	-1.0	5.2	青森市	-4.3	-2.4	伊達市	-6.7	-31.5	湯沢市	-9.7	-7.1
東松島市	-1.0	4.6	長井市	-4.4	2.0	新庄市	-6.7	-5.9	宮古市	-11.1	-30.5
岩沼市	-1.4	-2.6	山辺町	-4.5	5.1	黒石市	-6.8	-6.1	釜石市	-12.8	-17.4
亘理町	-1.5	2.7	大崎市	-4.5	23.8	五所川原市	-6.8	-9.3			

（総務省「国勢調査」）

＜参考＞ “人の動き”を決めるのは「費用（コスト・リスク）」＜「便益」

※ 同資料はコロナ禍中の講演・勉強会資料からの抜粋

「東京一強」は「都市集中」の「費用」と「便益」の比較 ⇒ 従来は圧倒的に便益超過

○ 都市の便益(ベネフィット)

- ・ 集積・規模の利益
- ・ 高分配所得の利益
- ・ 多様性(選択)の利益
- ・ 情報アクセス性・発信力の利益
- ・ 自由・プライバシーの利益
- ・ 社会的ステイタスなど満足感・優越感の利益

※ 地方移転の不確実性を回避したい
「現状維持バイアス」や「コロナ慣れ」「コロナ疲れ」なども「都市集中型」維持の利益となる。

>

or

<

?

○ 都市の費用（コスト）（従来）

- ・ 地代・賃料・物価の経済コスト
- ・ 通勤・混雑の時間・空間コスト
- ・ 孤独・孤立感の心理コスト
- ・ 災害時脆弱性などの社会コスト

+

○ コロナ禍で追加されたコスト

- ・ 感染リスク・不安など健康コスト
- ・ 感染対策(消毒等)の防疫コスト
- ・ ソーシャルディスタンス確保に伴う稼働率低下などの機会コスト
- ・ 感染高リスクに伴う風評コスト

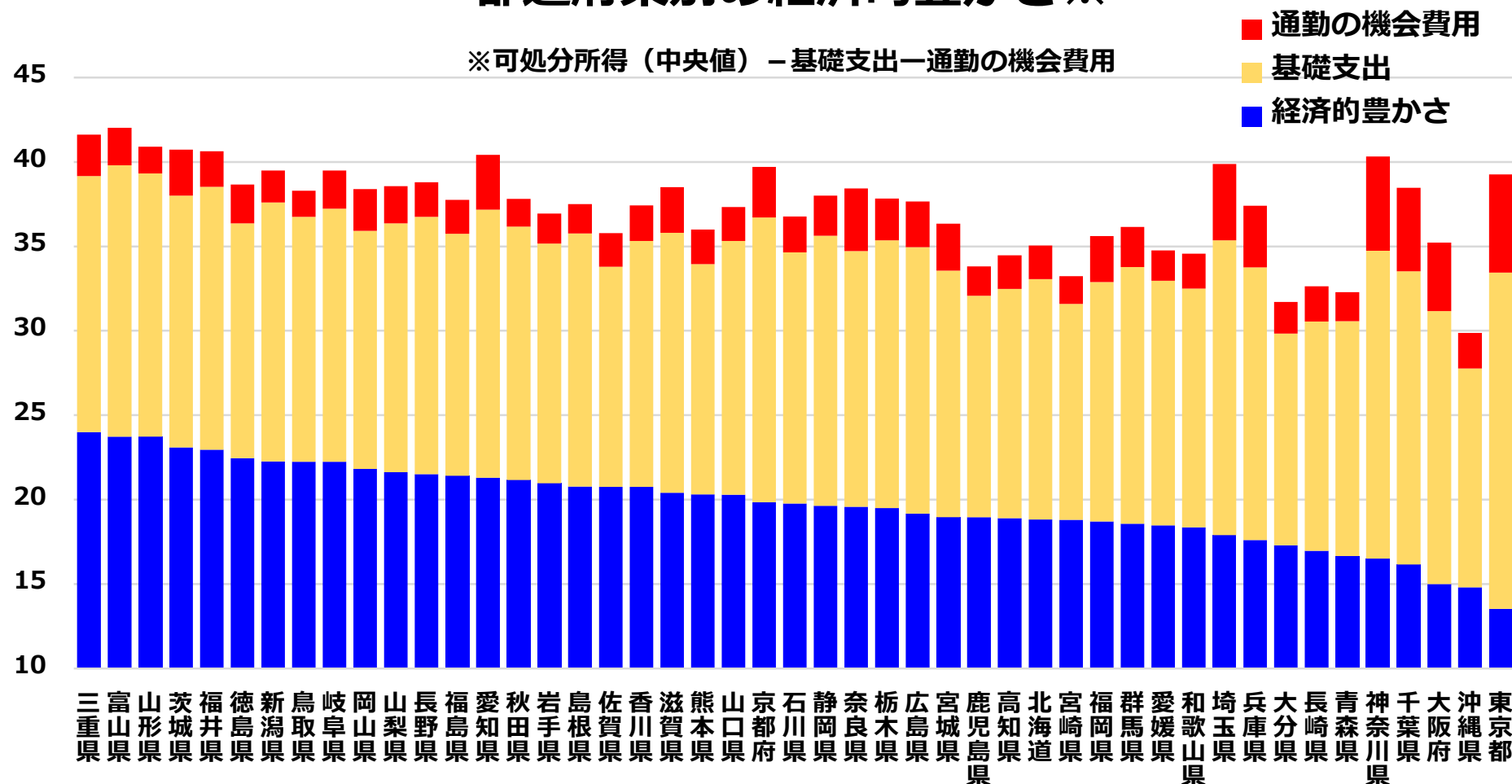
業種（企業部門）や居住者の価値観（家計部門）などによって最適解はマチマチだが東京の優位性はなお極めて高い。「地方の時代」とは、不確実な移転需要の取り込みを全地域間で競い合う超レッド・オーシャンの時代。コロナ禍収束により追加コストが低減すれば再び東京が便益超過、東京集中への巻き戻しが起こりうる。

東京は本当に経済的に「豊か」なのか？

(万円)

都道府県別の経済的豊かさ※

※可処分所得（中央値）－基礎支出－通勤の機会費用



国土交通省「国土の長期展望専門委員会（第13回）配布資料：2021年3月8日」

地方は経済的理由だけで人口を失っているのか？

若い女性が地方から転出する理由（複数回答）上位回答	(%)
やりたい仕事、やりがいのある仕事が地方では見つからない	58.9
東京（東京圏）に比べて年収が少ない	56.1
若者が楽しめる場所や施設が少ない	53.5
刺激が少ないなど地方の生活は退屈な印象がある	44.8
公共交通機関などのサービスが劣る	43.4
地方社会は狭く、閉塞感を感じる	33.7
煩わしい人間関係から離れたい	29.3
親や親せきの支配から逃れたい	27.6
地方では自分らしさや個性を表現しづらい	27.2
男女問わず若者が少ない（出会いの機会が少ない）	26.2

（公財）東北活性化研究センター「若い世代から積極的に選ばれる東北の実現に向けて」（2021年3月12日）（以下同じ）

地域幸福度（Well-Being）指標とは？

地域幸福度（Well-Being）指標：データで描く「人間中心」のまちづくり



人間中心のまちづくりを実現
市民の視点から幸福感を可視化し、自治体の個性を活かした政策立案を支援します。



データに基づく政策転換
客観と主観のデータを活用し、より政策効果の高い歳出への転換を促進します。



国際標準の枠組みを採用
WHO等の国際的な枠組みを導入し、無料でオープンなデータとして提供されます。



主観指標：心で感じる「幸福感」
アンケートに基づき、個人の幸せや満足度を測定。時系列での比較に適しています。



個人の幸せ：現在、あなたはどの程度幸せですか？



地域の幸福：あなたの町内（集落）の人々は、大体においてどの程度幸せだと思いますか？



生活の満足度：現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか？

共通する3つの因子群

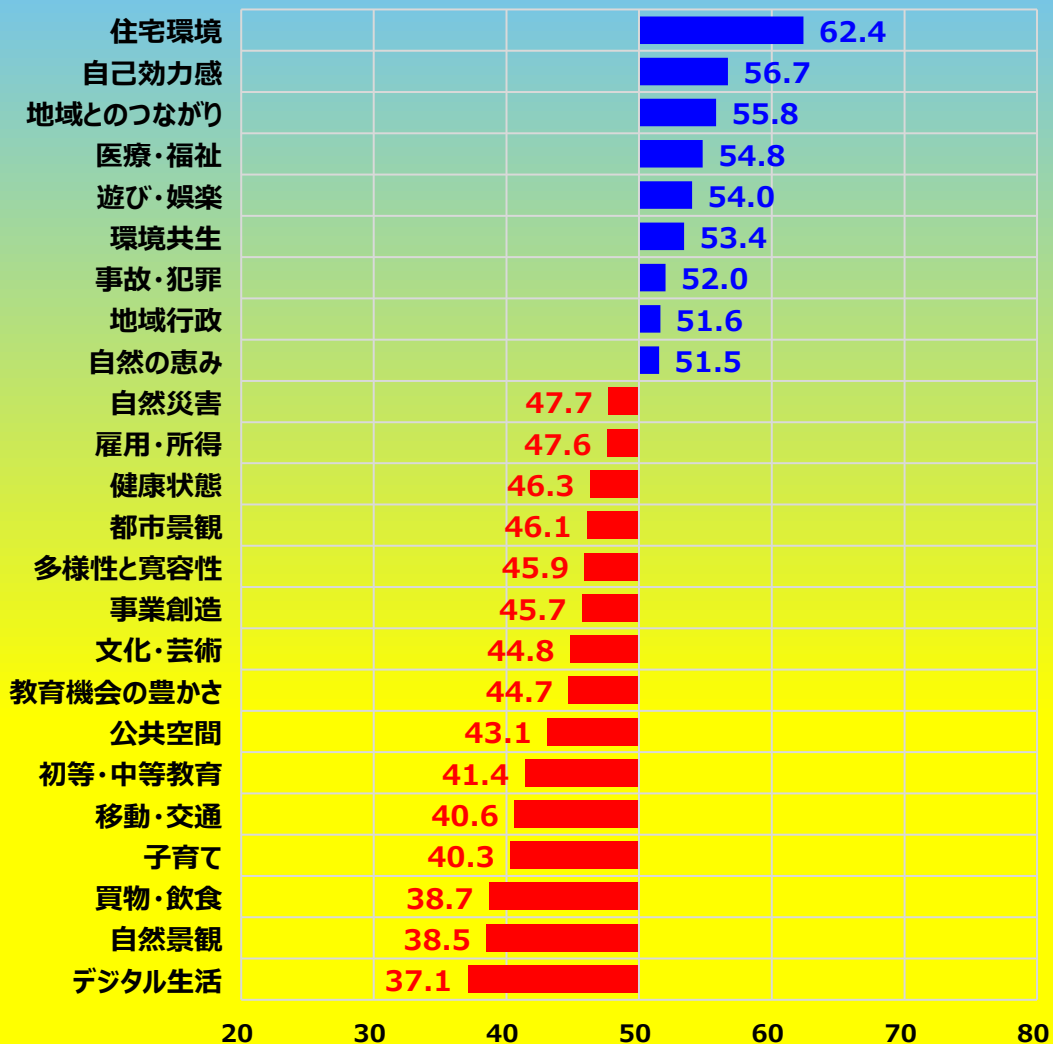


客観指標：環境による「暮らしやすさ」
オープンデータに基づき、生活環境を測定。分野間での比較に適しています。



角田市の地域幸福度（Well-Being）指標

Well-Being指標・カテゴリー別/角田市（偏差値）



1. 角田市の特徴（強み）

客観データの偏差値を見ると、角田市には生活の基盤となる環境面でいくつかの強みがあります。

良好な住宅環境：「住宅環境」の指標は62.4と高く、市民がゆとりある住まいを確保できていることが伺えます。

地域コミュニティの維持：「地域とのつながり」は55.8であり、人間関係の希薄化が課題となる現代において、一定のコミュニティ機能が維持されている点は大きな資本です。

医療・福祉の安定：「医療・福祉」は54.8と平均を上回っており、基本的な安心・安全のインフラが整っていることが特徴です。

自己効力感（かつての強み）：2023年度には70.3という非常に高い数値を記録していましたが、2025年度以降は56.7に低下しています。依然として平均よりは高いものの、低下傾向にある点には注意が必要です。

2. 角田市の課題

データからは、生活の利便性や次世代育成環境における課題が浮き彫りになっています。

利便性とインフラの不足：「デジタル生活」(37.1)、「買物・飲食」(38.7)、「移動・交通」(40.6)のスコアが低く、日常生活の利便性向上や、デジタル化による効率化が急務となっています。

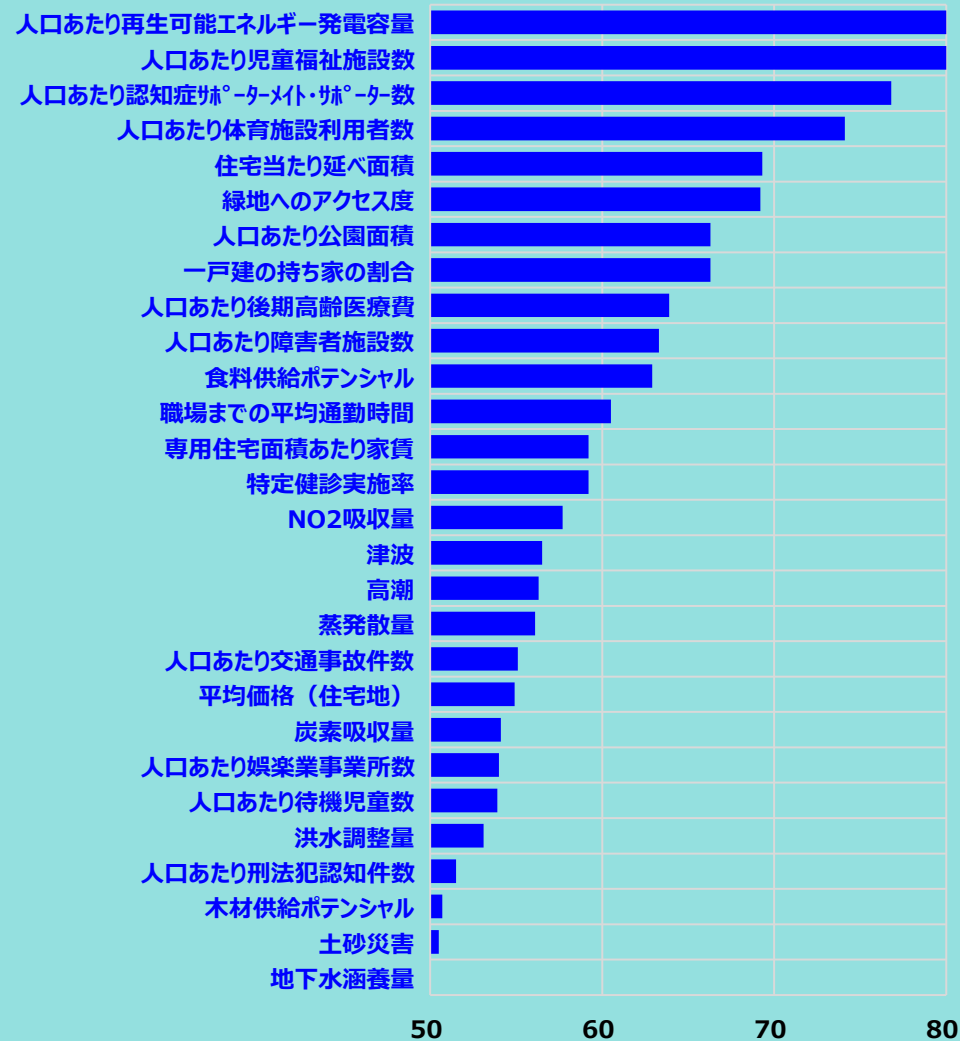
教育・子育て環境の低下：「初等・中等教育」は2023年度の51.8から41.4へ、「子育て」も40.3へと低下しており、若い世代にとっての魅力維持が課題です。

景観資源の主観的な低評価：「自然景観」が38.5と低く、地域資源が十分に活かされていない、あるいは市民の誇りに繋がっていない可能性があります。

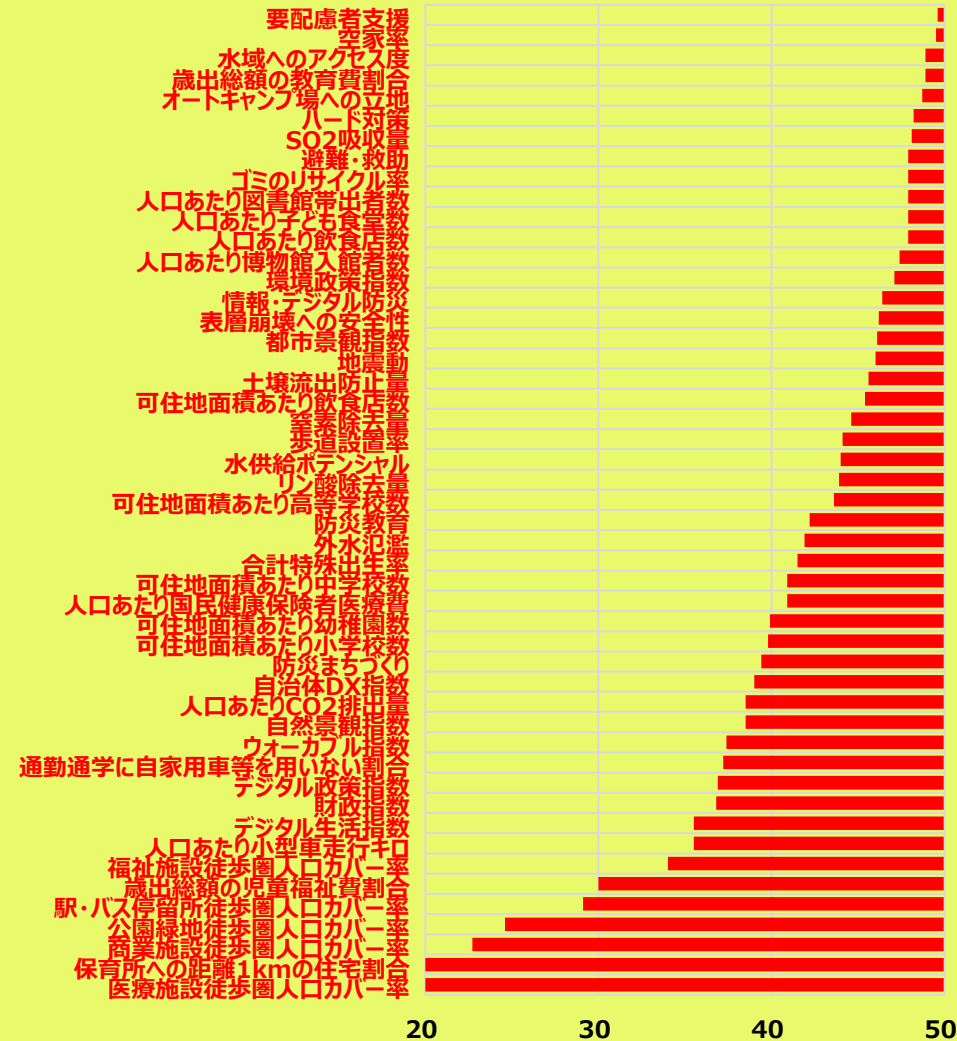
自分らしい生き方の制約：「雇用・所得」(47.6)や「文化・芸術」(44.8)が平均を下回っており、経済的な自立や精神的な豊かさを追求する機会の拡充が求められます。

角田市の地域幸福度指標 ①生活環境

生活環境/角田市（偏差値50以上）

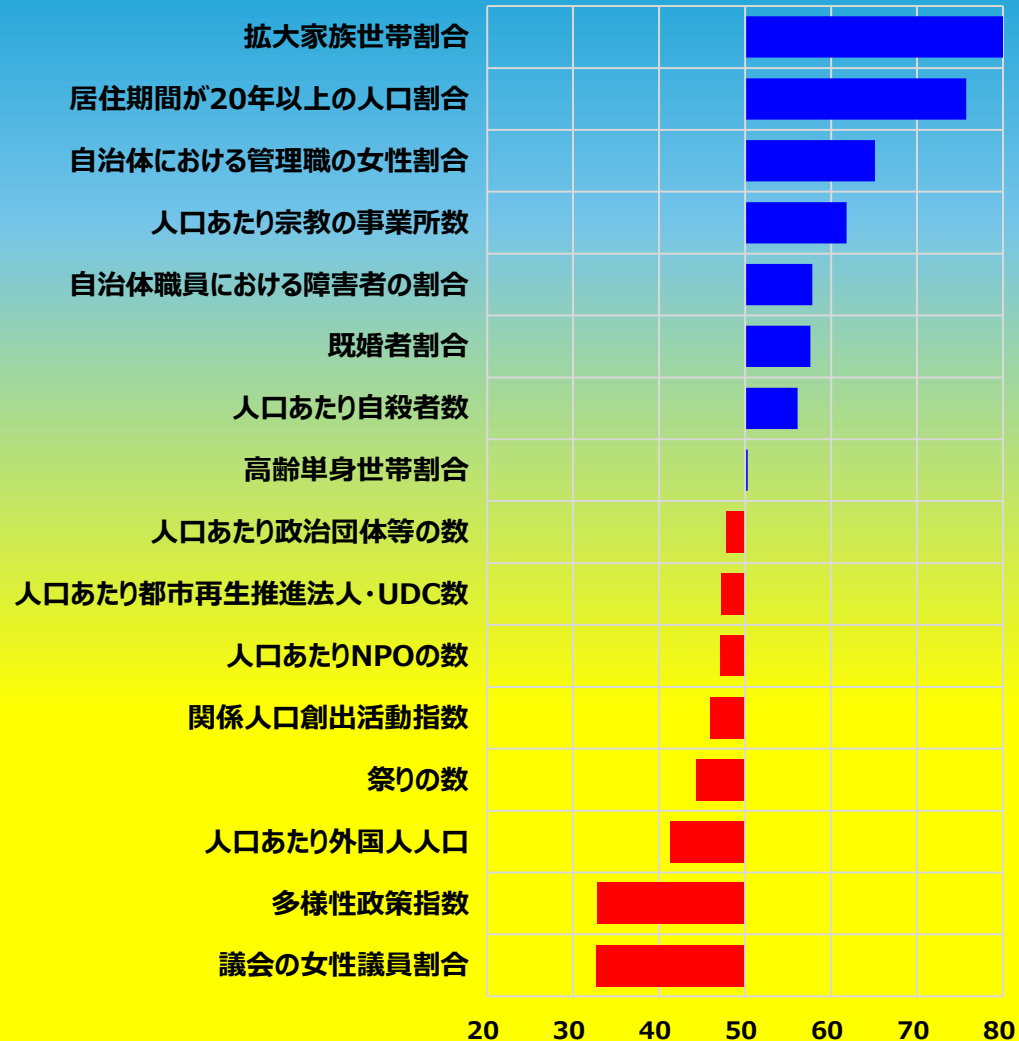


生活環境/角田市（偏差値50未満）

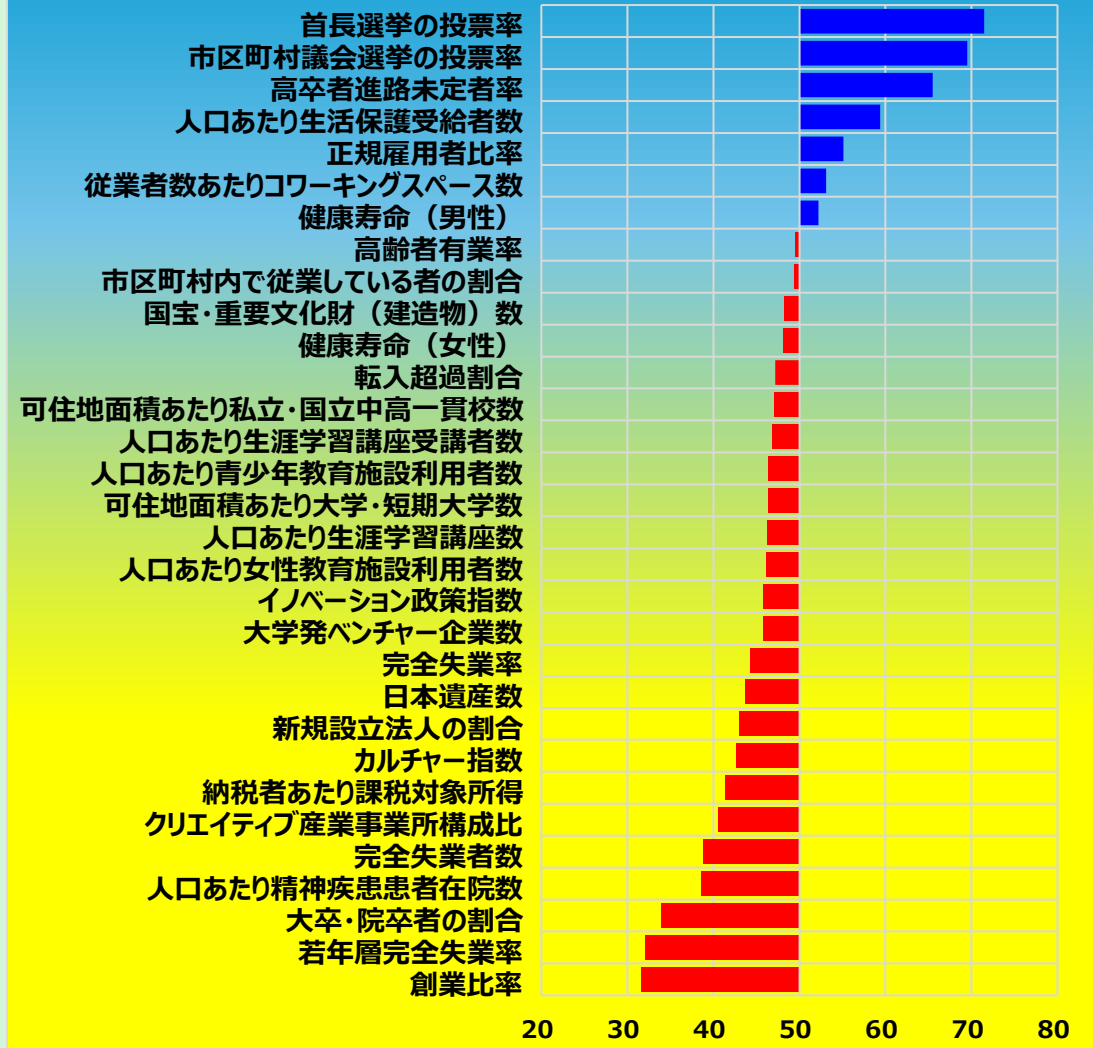


②地域の人間関係・③自分らしい生き方

地域の人間関係/角田市（偏差値）



自分らしい生き方/角田市（偏差値）

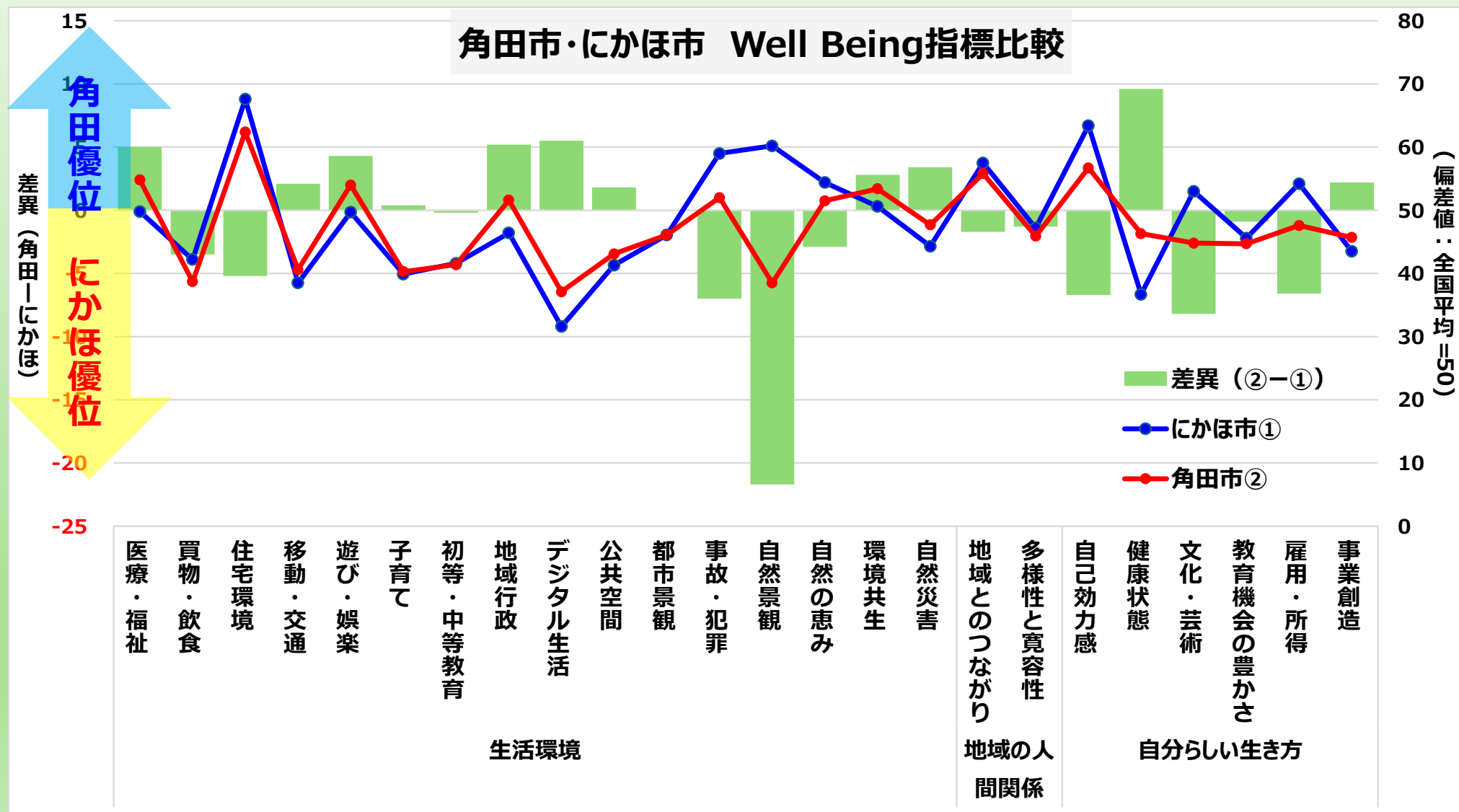


比べるのはNG? 類似都市のウェルビーイングは？



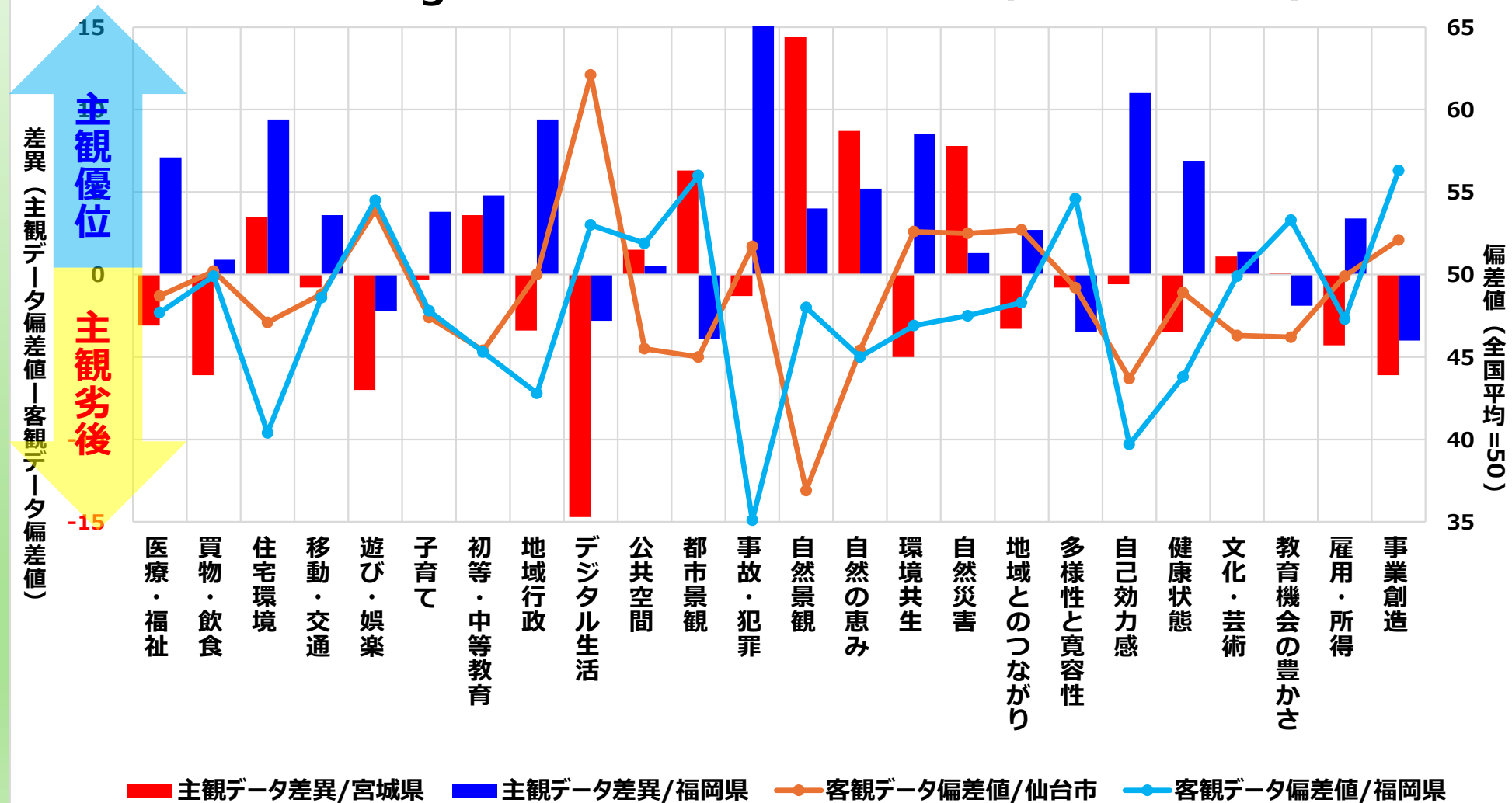
項目	にかほ市①	角田市②	差異②-①
面積(km ²)	241.11	147.53	-93.58
国勢調査人口(人)	21,181	25,448	4,267
国勢調査人口減少率(%)	-9.6	-9.0	0.6
人口密度(人/km ²)	87.8	172.5	84.70
高齢化率(%)	40.5	38.3	-2.24
民営事業所数(事業所)	725	803	78
従業者数(人)	10,631	11,845	1,214
市内総生産(億円)	1,315	2,186	871
(製造業比率：%)	53.0	67.4	14.4
製造品出荷額(億円)	1,885	3,801	1,916
製造品付加価値額(億円)	1,076	1,508	432
一人当たり市民所得(万円)	379	270	-109
一人当たり課税所得(万円)	306	292	-14

類似都市に比べ、角田のWell Beingはどうか？

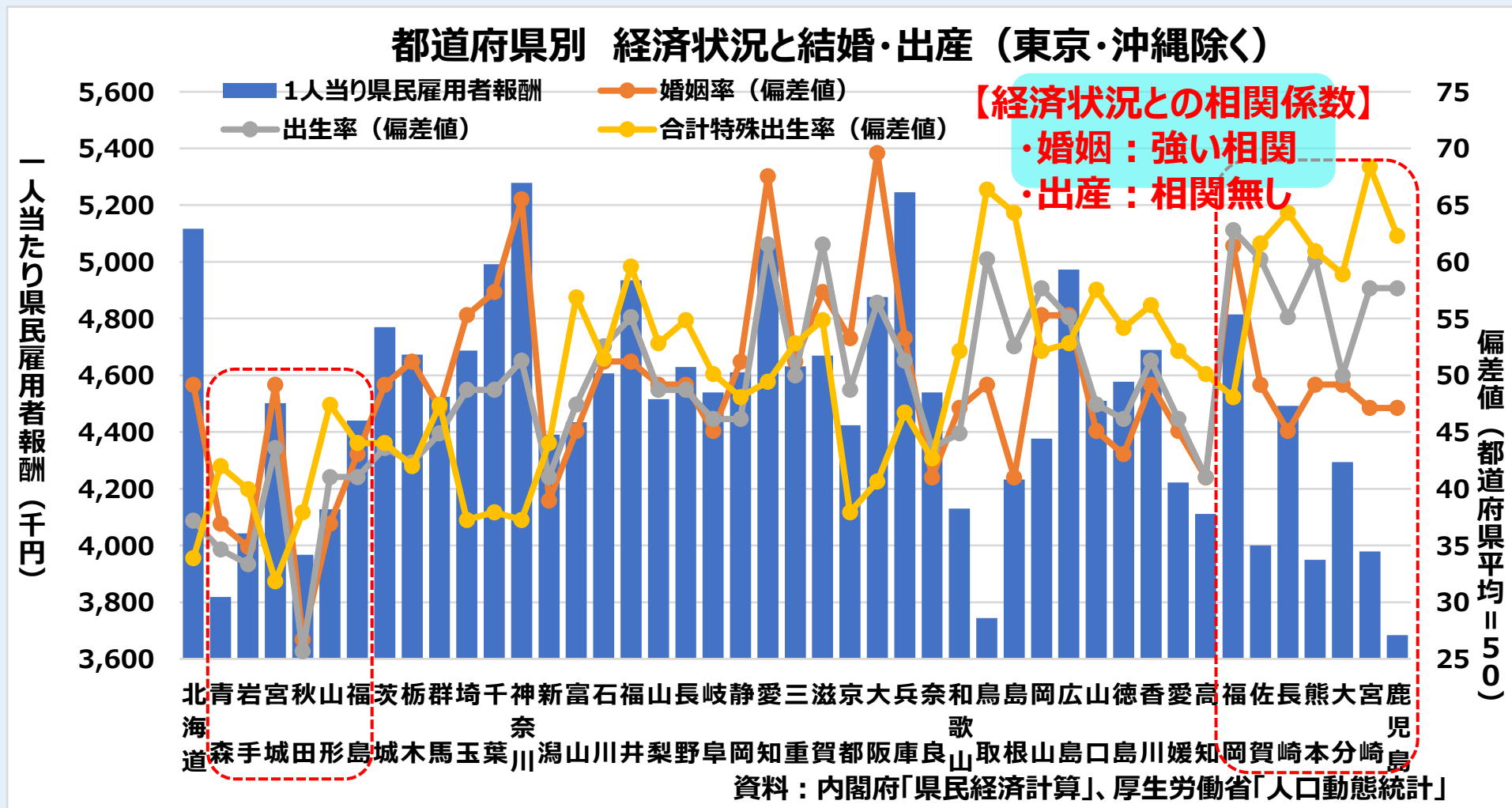


たとえ客観的に恵まれていたとしても・・・

Well Being指標 主観・客観データの差異（宮城県・福岡県）



＜参考＞ 経済状況と結婚・出産～「西高東低の出生率」～



婚姻率は経済状況（所得環境）がよいほど高くなるが、出生率は経済状況とは無関係で「西高東低」の傾向。東北は離婚率も低く「結婚・出産に慎重」な社会的要因も想定。やみくもにお金をバラまく「異次元の少子化対策」に効果はあるのか？

The Strategic Lens: 角田市の現在地を可視化する

注意！これはAIが作った間違った資料です。



客観データ

(インフラ、環境、制度などのハード面)



戦略的ギャップ

(2つの乖離から生まれる次の一手)



主観データ

(市民の満足度、自己効力感などのソフト面)

2025年から2026年までの客観・主観データを統合し、角田市が抱える「見えない課題」をダッシュボード上で冷徹に監査する。

カテゴリー別監査：インフラ（客観）と実感（主観）の乖離



ハード面（インフラ）の整備状況に対し、ソフト面（市民の心理的実感）がどのように反応しているか。この「差分」にこそ、政策介入のヒントがある。

経年変化（2023-2026）が鳴らす「警告シグナル」

住宅環境：63.6 (2023) → 62.4 (2026)

地域行政：51.6 (2023) → 51.6 (2026)

注意！これはAIが作った間違った資料です

自己効力感：70.3 (2023)

→ 56.7 (2026) ※急落

初等・中等教育：51.8 (2023)

→ 41.4 (2026) ※急落

デジタル生活：44.1 (2023)

→ 37.1 (2026) ※継続的下落

移動・交通：44.3 (2023)

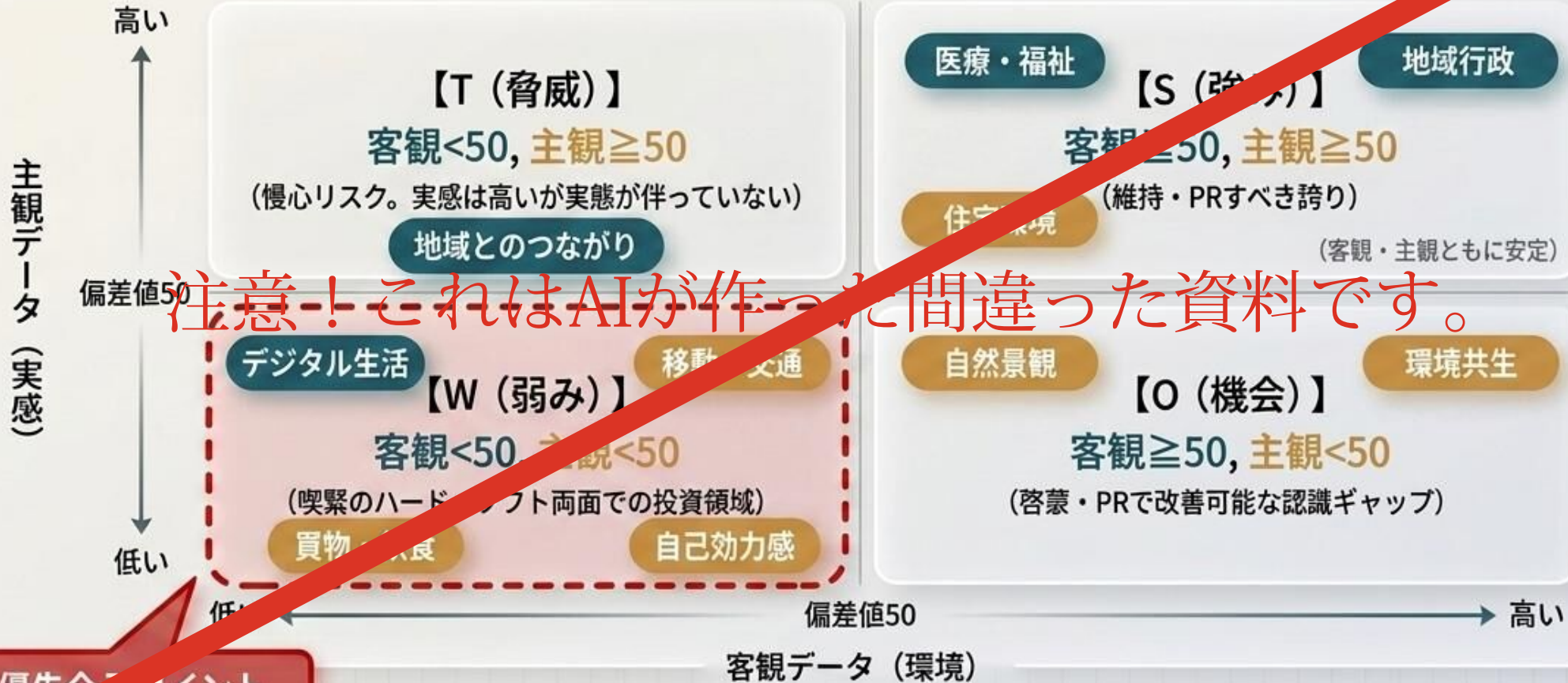
→ 40.6 (2026)

子育て：42.2 (2023)

→ 40.3 (2026)

「わずか4年間で『自己効力感（自分らしい生き方）』と『教育インフラ』に対する客観的評価が劇的に低下。これは将来のエンゲージメント喪失に直結する深刻な兆候である。」

角田市のウェルビーイング・ポートフォリオ



注意！これはAIが作った間違った資料です。

最優先介入ポイント
(最大のボトルネック)

○ 一口に「人口問題」と言っても多様、「7つの人口」のどこが問題か？

【ストック面】

①定住（夜間）人口

- ・ 狭義の人口、**地域の核**となる居住者
- ・ 年齢別（人口の**バランス・シート**）にも注意
- ・ 人口獲得の**地域間競争は不毛な争い**

②昼間人口

- ・ **通勤・通学**の出入りを加減した**昼の人口**
- ・ 「多い＝賑わい」が**必ずしもプラス**ならず
- ・ **夜間休日**は（⑥交流人口）のターゲット

③D I D（人口集中地区）

- ・ 人口密度4000人/km²・5000人以上
- ・ 「集積の利益」と「**コンパクト・シティ**」
- ・ 人口減少時代の**キー・コンセプト**

④将来推計人口

- ・ **不確かな未来の確かな予測**
- ・ 対策が奏功しても**人口は当面減る**
- ・ “**スマート・シリング（戦略的に賢く縮む）**”

【フロー面】

⑤自然増減（出生・死亡）

- ・ **域内要因**（出生・死亡）による増減
- ・ 人口減少、未婚女性の上昇で**出生率低下**
- ・ 少子高齢化で全国的にも**自然減拡大傾向**

⑥社会増減（転入・転出）

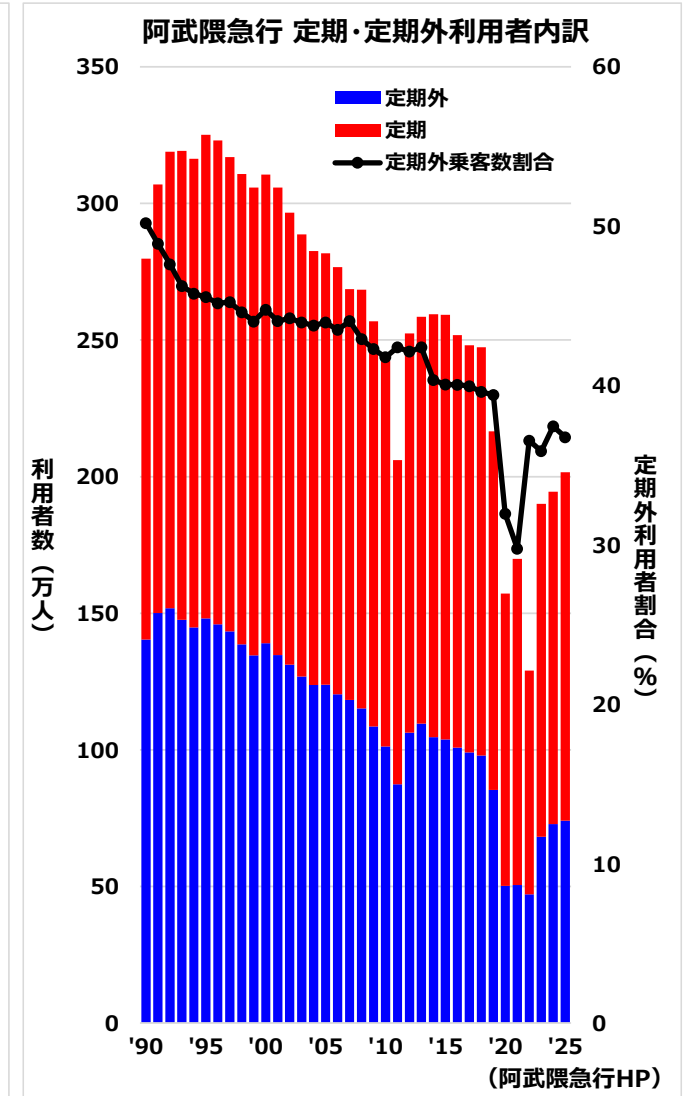
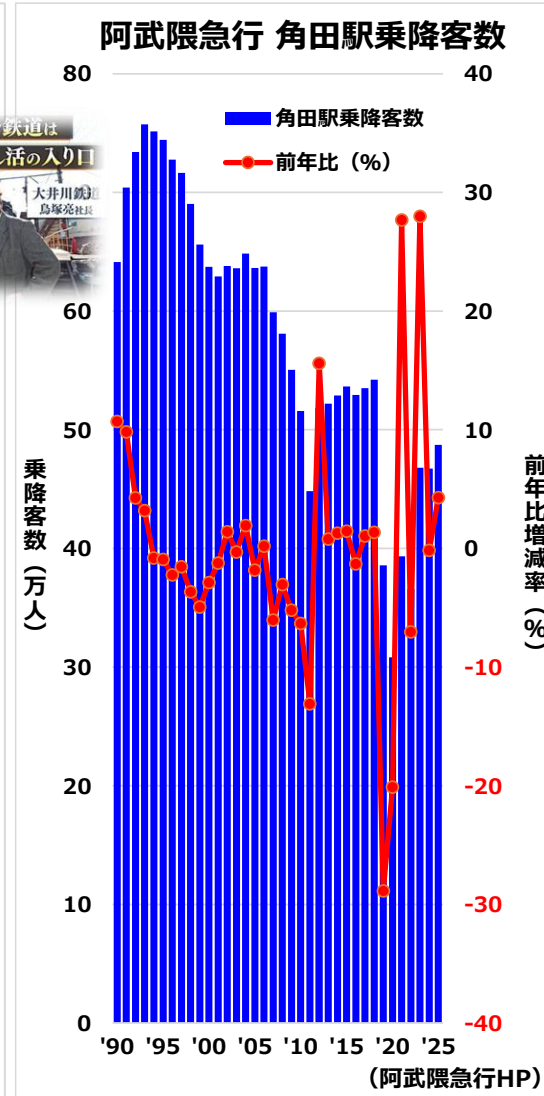
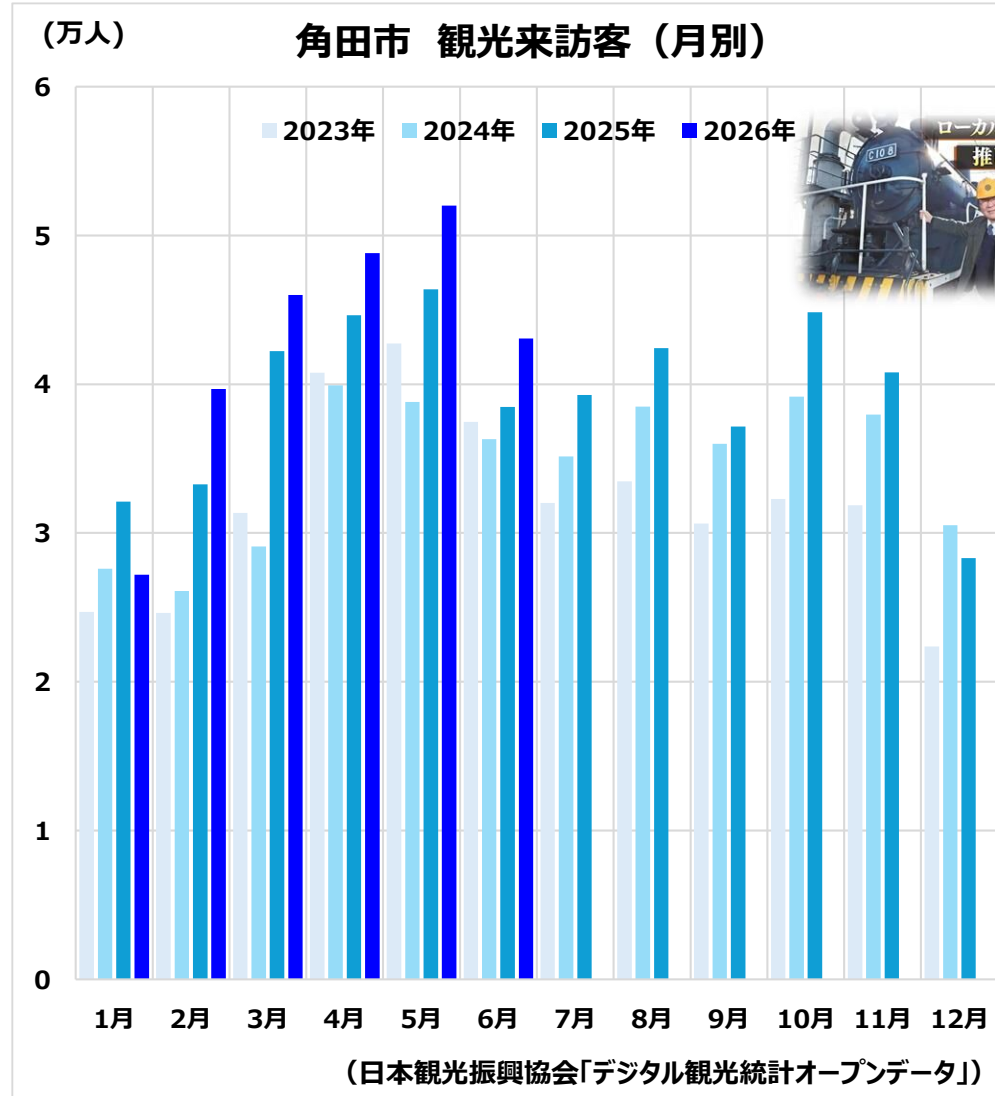
- ・ **域外要因**（転出・転入）による増減
- ・ 人口の**キャッシュ・フロー**（都会黒字・地方赤字）
- ・ **若い女性の流出が多い地域は要注意**

⑦交流人口・広義の入込客（ビジネス・観光）

- ・ 定住人口と異なり**シェア可能**
- ・ **外貨獲得**に向けた**地産外商のターゲット**

このほか、実態が補足できないので取り上げにくい⑧「**関係人口**」がある。人口はより流動的になってきており、**多くの地域に所属する人**が増えている。

角田の交流人口は？



「勸 告」

○ 関係人口とは？ 地方の地質改善につながる第8の人口

（中略）「関係人口」という言葉は、今では地方創生を語る上で欠かせないものとなっている。（中略）にたとえば、地方活性化において「特効薬」として期待されることがある。だが僕は「漢方薬」だと考えている。（中略）他力本願の姿勢から、地域の中にある資源を活用し、自ら新たな価値を生み出す姿勢への体質改善に役立つのが「関係人口」となる人々なのだ。

高橋 博之氏 都市と地方をかきまぜる
日本初・インパクトプロの企業「雨風太陽」代取
（「はじめに」より）

現代社会では、本来不可分である「消費者と生産者」「都市と地方」「人間と自然」が分断されてしまっている。僕たちの会社は、「消費者と生産者」の接触面積を広げ、都市と地方のあいだに「関係人口」を生み出すことで、日本中あらゆる場の可能性を花開かせていきたいと考えている。

地方は都市なくしてやっていけない
都市は地方なくしてやっていけない
相互に必要不可欠な存在なのに
両者が「分断」しつつある昨今、
両者をかきまぜる「関係人口」を
増やしていくことが必要

関係人口

都市と地方を同時並行で生かす

ビズラボ コラム

この参院選で各党は物価高対策や外国人政策などについて熱弁を振るっているが、東北最大の課題である人口問題については実のある主張が少ない印象だ。普段は人のこった返す東京で政局に明け暮れ、選挙のときだけ用意された原稿を丸暗記しても、人口減少社会のリアリティーが希薄で説得力に欠けるのは当然だろう。

一口に「人口」と言っても多様だ。公的統計だけでも代表的な「定住・夜間人口」のほか「昼間人口」「人口集中地区人口」「将来推計人口」などのストック面に「自然増減」「社会増減」「交流人口」といったフロー面を加え、七つの人口関連データがある。そのどこに問題があるかを

田口 庸友

都市と地方をかきまぜる

なご事業を展開するうちに、「観光以上・移住未満」の範囲で地域に関わりを持ち続ける人々の躍動に地域再生の希望を見いだしたのである。

その規模は「関わりを持つ人々」という曖昧さゆえに長らく把握できずにいたが、国土交通省が6月に発表した調査結果によると全国で2263万人、東北6県では301万人に上る。居住人口当たりでは山形（0・54）が首位、最も低い青森（0・31）でも12位と上位を占める。東日本大震災を契機とした絆が主因だと考えられるが、6県とも新幹線が通り、首都圏から日帰り可能な交通インフラによる「逆ストロー効果」も大きいのだろう。

関係人口が重要なのは、人口減少が避けられず、人口減少が不可避なわが国で「人口のシェア」が可能になる点だ。近年、不足資源を融通し合うシェアサービスが普及し、対象はモノ・カネ・場所・移動・スキルなど多岐にわたるが、人口は選挙・納税のため一人一居住地が原則である。第二住民票や二拠点居住の促進はハードルが高いが、地方創生1・0で失敗した人口の「奪い合い」から「分け合い」への転換を図るもので、地方にとっては天恵だ。

都市と地方は相互に不可欠な存在だが、地方の重要政策は東京で決められる。政策的な分断を招き、互いを不幸にする。高橋氏の唱える「都市と地方をかきまぜる」関係人口の増加は、政策の質を高め両者の溝を埋める。社会全体に漂う閉塞感を打破する効果も期待できそうだ。

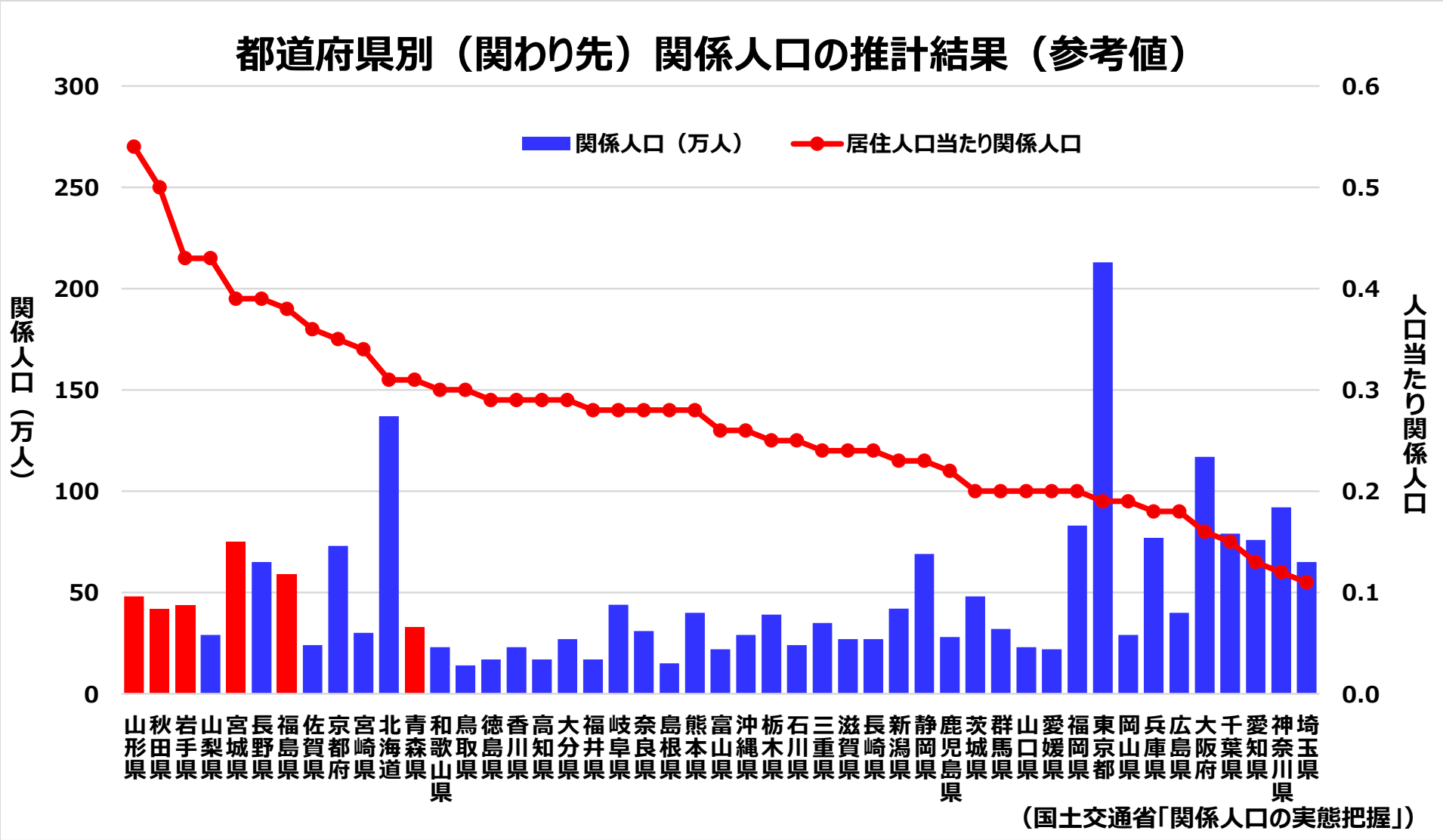
（七十七リサーチ&コンサルティング 代表取締役 高橋博之氏）

河北新報（2025年7月18日）

河北経済研究所 シニアフェロー

「新 規」

○ 地方ほど割合の高い関係人口、需要・供給両面で地方を支える存在に



東日本大震災で築かれた“絆”と6県に新幹線が開通して3600万人を抱える首都圏からの交通アクセスに優れた“逆ストロー効果”、東北は「シェア可能」な関係人口の先進地域。

「新」

○ 関係人口を生み出す仕組みで広がる「人的資源のシェアリング」



宿泊施設・旅行先でお手伝いをしながら旅を続け人手不足を補う仕組み

((株)おてつたび HP)



質の高い消費と投資を呼び込むためのデジタルノマド誘客促進事業（補助事業）採択事業一覧

申請主体	実施地域	事業名
鹿追町国際交流協議会	北海道河東郡鹿追町	鹿追町価値交換型デジタルノマド受入事業
Omiisay株式会社、株式会社SENBI Z	宮城県大崎市	神話と伝承が息づく大崎における神楽・茶道・美食・工芸の没入型体験と受入環境整備によるデジタルノマドの長期滞在促進及び地域消費・ビジネス創出事業
株式会社わつなぎ	秋田県仙北市 (田沢湖地域)	～自然と温泉のある暮らし～ 秋田県田沢湖地域アウトドア×コミュニティ型デジタルノマド向け Tazawako Onsen Coliving 整備事業
特定非営利活動法人いどうば会議	山形県高畠町・飯豊町 他 (置賜地域)	地域資源を活用したデジタルノマド長期滞在モデル構築事業 ―築300年古民家と先端技術の融合による地域創生―
株式会社R-DEPOT	長野県長野市 (善光寺門前地域)	“国際研究ツーリズム”の開催誘致によるデジタルノマドとの連携・新産業創出事業

事業目的・背景・課題
○世界的なデジタルノマドを超えたロングステイに加え、実業家等も含め
○ビザ新設の効果の最長には、長期滞在に適したプロモーション戦略

事業内容
①調査事業
デジタルノマドの誘客の志向・特性に応じた
➢ 東京/大阪×地方の
➢ 高収入層デジタルノ
➢ 観光ビザの滞在期間
➢ 企業に属するデジタル
➢ 上記に比肩する先達

②補助事業
デジタルノマド受入れ

事業スキーム
・事業形態：①調査事業等
②直接補助事業（補助率1/2、上限7百万円）
・補助対象・請負先：地方公共団体、DMO、民間事業者等
・事業期間：令和7年度～

担当課室：観光庁 観光資源課



デジタルノマドとは？
時間や場所にとらわれず世界中をリモートワークして回る人々
Ex.IT技術者、1-チューバー、インサ等定着すれば有力な関係人口に。

(観光庁)

「新報」

＜地方創生＞ 批判多きふるさと納税・自助努力で域外展開するための必要悪？

ビズラボ コラム

石破茂首相が初代地方創生担当相に就任したのは2014年9月。今年でちょうど10年が経過した。この間、大都市圏への人口集中はむしろ加速し、東北の人口は72万8000人（8・0％）減少した。人口減少は一般的に経済を縮小させるが、東北では伸びた分野もある。その一つが「納税」。23年度に国内の寄付額が1兆円を突破して話題となったが、東北も前年度から21・1％増え1187億円となり、初めて1000億円を超えた。

1187億円
東北のふるさと納税
受入寄付額

数字で読み解く 東北

田口 庸友



その規模は東北の水産物の名目生産額（884億円）を上回り、名目総生産の0・3％に相当する。「急成長市場」と言えよう。

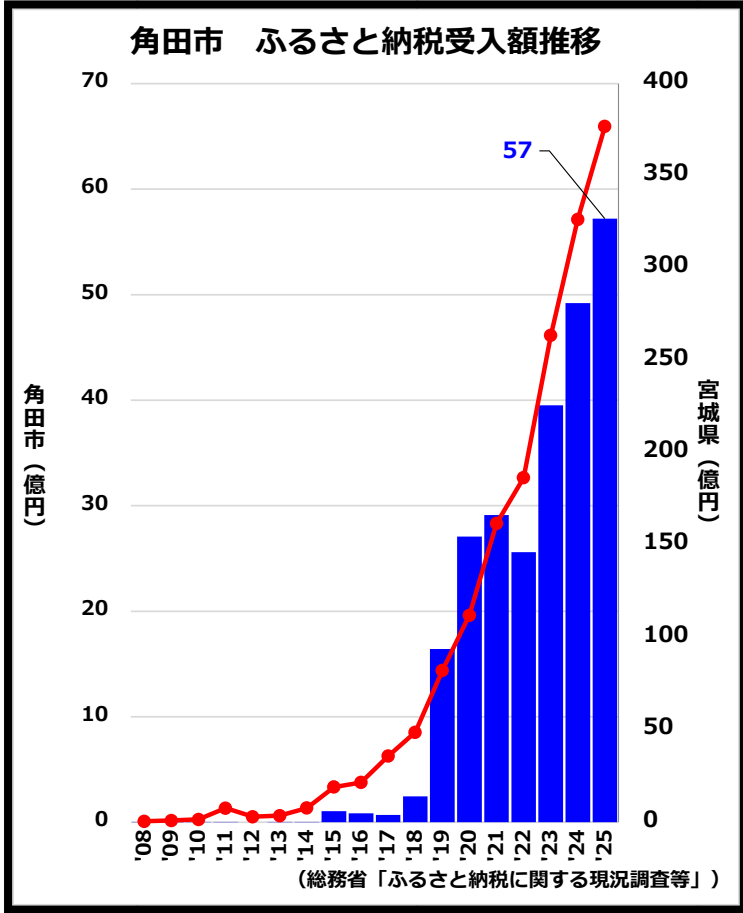
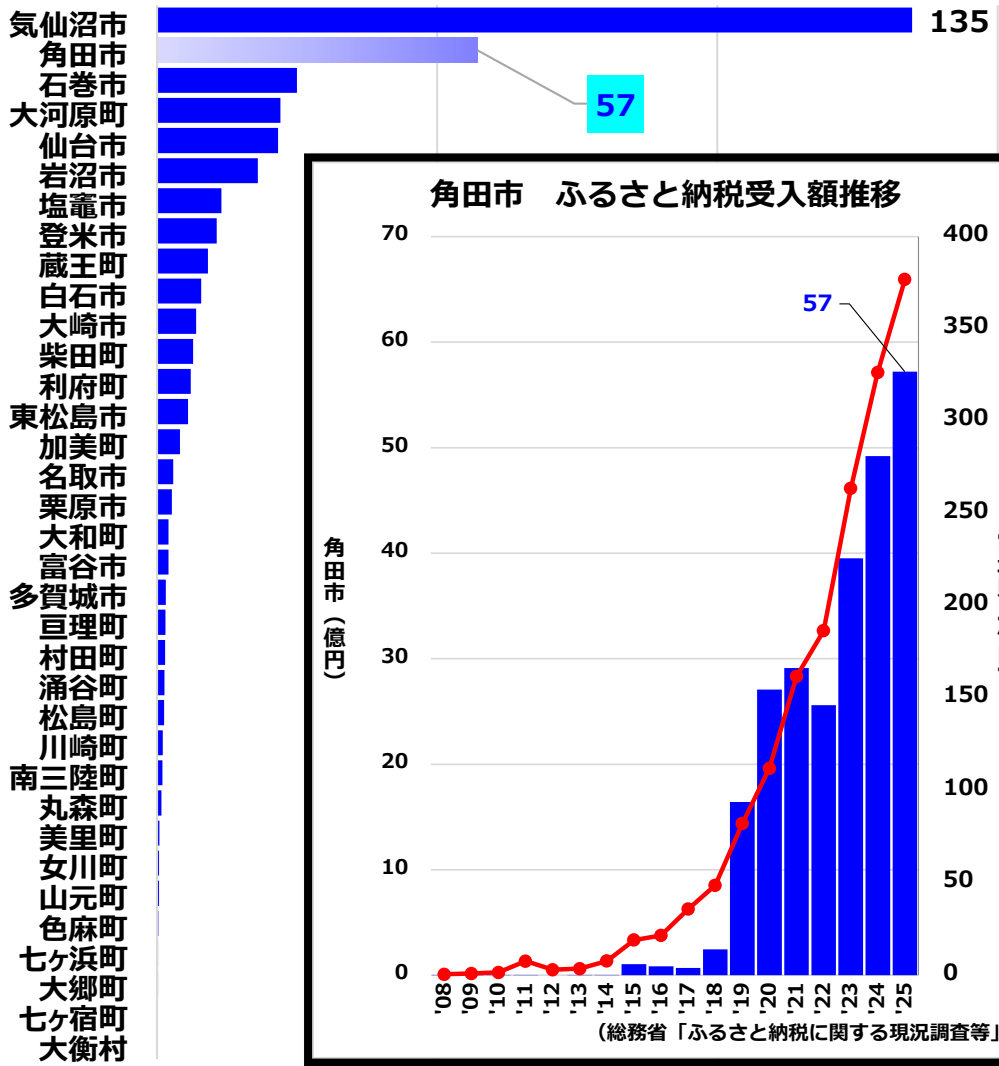
地域潤す「成長市場」に

ふるさと納税受入寄付額（億円）			東北各市町村別順位		
2023年度受入寄付額	金額	順位	順位	自治体	金額
青森県	74	40	1	宮城県 気仙沼市	94.9
岩手県	233	18	2	岩手県 花巻市	90.6
宮城県	264	15	3	山形県 酒田市	43.7
秋田県	100	35	4	宮城県 角田市	39.5
山形県	426	6	5	山形県 山形市	38.8
福島県	90	37	6	山形県 天童市	35.9
東北計	1,187		7	山形県 寒河江市	32.7
全国	11,175		8	山形県 上山市	27.3
※県への寄付分を含む			9	秋田県 仙北市	25.9
			10	宮城県 大河原町	25.0

総務省「ふるさと納税に関する現況調査結果」

制度がいち早く活用され、以降も上位の常連にある。一方、ふるさと納税は行政サービスの受益と負担の原則をゆがめ、税収を奪い合うゼロサムゲームであり、地域産品と無関係の過剰な返礼品競争が横行し、寄付者もネットショッピング感覚のため、地域への関心が薄いとされた批判が根強い。規制を強めれば市場が伸び悩むというジレンマも抱える。

市町村別 ふるさと納税受入額（2025年度）



（2024年10月12日…河北新聞）

角田の関係人口の可能性は？



ELEVATION
SPACE



ElevationSpace、
2030年代の有人宇宙輸送
実現に向けVisionを刷新



「大好きな東北の発展
に寄与できる産業を作
り出したい。多くの産業
は成熟しているが、宇
宙産業はこれから大きく
伸びる割に特定の地域
に集積がまだあまりない
ブルーオーシャンだ」

角田のウェルビーイングを高めるには？

～答えのない問い、考えて気づくことが第一歩～

- ウェルビーイングは「経済的豊かさ」を超えた幸福感・充実感(クオリティ・オブ・ライフ)が本質だが、その基盤には「経済的豊かさ」がある。角田はその基盤がしっかりしており、特に企業は経済活動だけでなく、市民の生活や街づくりなどにも活動領域を広げ、ウェルビーイングを高めるためにできることがあるのではないかな。
- ウェルビーイングの構成要素のなかで「人のつながり」が果たす役割が大きい一方、角田に限らず地方では少子化や若者の流出で人そのものが少なくなっている。域内だけでなく、域外との交流・関係が必要になっているのではないかな。
- ウェルビーイングに対しては主観と客観の乖離が散見され、「すでにあるもの」を過小評価するきらいがある。「われらの日常は、彼らの非日常」であり、他との交流により自らの地域資源（あるもの）に対する他の評価を通じてその価値を「再発見」することが、ウェルビーイングを高めることにつながるのではないかな。